

第4章 企画研修

第4章 企画研修

第1節 企画研修の概要

1. ねらい

本企画研修は、看護職員研修担当者・指導的立場にある看護師が、看護職員に対して研修会を実施する手法を強化すること及び看護職員研修担当者が、研修開催に関する各地域の課題を共有し検討することで解決策を見出すことをねらいとした。

2. 内容・方法

1) 開催日時

令和2年12月4日（金）10：00～16：45

2) 研修名

「学校における医療的ケアに関する看護職員の研修企画」研究協議会

3) 開催方法

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、Zoom ミーティングによるライブ配信とした。トラブル回避のため、講義は事前収録した映像を配信し、アナウンスとグループワーク以降のプログラムはライブ配信とした。

4) 対象者

都道府県及び政令指定都市の学校に勤務する看護職員研修を企画する担当者（指導的立場にある看護師含む）67自治体対象を対象として募集した。なお、Zoomの設定上、1自治体1端末までの参加とした。

5) 参加者募集方法

文部科学省より都道府県及び政令指定都市に対して案内及び公募を行い、本財団にて受付けた。

6) プログラム

「別添」（p.118）参照

7) 講義資料

本企画研修の資料は、令和元年度文部科学省委託事業にて公益財団法人日本訪問看護財団が作成した「学校における医療的ケア実施対応マニュアル（看護師用）」※を1冊ず

つ送付し、当日の講義資料（パワーポイントデータ）は、ダウンロードの URL を送付した。

※日本訪問看護財団ホームページよりダウンロード可能

URL: <https://www.jvnf.or.jp/kenkyukaihatu.html>

第2節 企画研修の開催結果

1. 受講者

都道府県及び政令指定都市全 67 自治体の教育委員会に対し募集した結果、55 人の申し込みがあり、当日は 53 人が受講した（うち一部参加 2 人）。

2. グループワーク

1) テーマ

看護職員を対象とした研修会開催に向けた課題の解決

2) グループ分け

受講者 52 人を 8 グループ（1 グループ 6～7 人）に以下の条件にて事前振分けをした。グループ分けは、Zoom ミーティング内のブレイクアウトセッション機能を使用した。

（振分け条件）

- ・事前アンケート調査にて、現在抱える課題がなるべく共通している
- ・医療的ケア及び現職の経験年数は、経験値による意見の偏りをなくすため様々とする
- ・都道府県と政令指定都市は混在させる

※各グループの進行・発表担当を事前に依頼し承諾を得た

（現職の経験年数が 1 年以上であり、安定した Web 配信環境を担保するため、有線で受講する者を事務局にて選出し、直接依頼した）

3) グループワーク担当

- ・講師 下山 直人 氏（有識者会議座長）
- ・各グループ担当
 - A 津川 周一 氏（ワーキング会議座長・講師）
 - B 石井 光子 氏（ワーキング会議委員・講師）
 - C 植田 陽子 氏（ワーキング会議委員・講師）
 - D 町田 睦美 氏（ワーキング会議委員）
 - E 中葉 哲郎 氏（ワーキング会議委員・講師）
 - F 渡邊 登志子 氏（ワーキング会議委員）
 - G 平原 優美（日本訪問看護財団 事務局）
 - H 菊地 よしこ（日本訪問看護財団 事務局）

4) グループワーク発表

(1) 発表内容

- ・グループワークで出た主な課題について
- ・主な課題の解決策について

(2) 発表された内容の概要

| 番号 | 課題 | 解決策 |
|----|---------------------------------|--|
| 1 | 看護職員の学校文化の理解について | <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めや初任者に指導主事や指導医による講義をする ・教育委員会側が看護職員に対して求めているものを伝えることは欠かせないので、これが含まれた研修をする ・自立活動の研修に看護職員として参加する |
| 2 | コロナ禍の実技研修の在り方 | (意見) 実技演習と協議は集合研修の方がやりやすい |
| 3 | 様々な勤務形態の看護職員に対する研修開催場所の確保、時間の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修 ・放課後や休校日の開催 |
| 4 | 看護職員が少ない自治体の研修開催の難しさ | (発表なし) |
| 5 | 看護職員の研修ニーズの把握の大切さ | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査 ・直接ヒアリング |
| 6 | 看護職員の経験の差による研修ニーズの違い | <ul style="list-style-type: none"> ・経験の差に合わせた専門職を活用した研修の企画 ・内容も講師も年度毎に変えて開催 ・初任者研修を開催 |
| 7 | 看護職員のニーズに合わせた研修企画 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導的立場にある看護師による研修企画 ・学校勤務の看護職員による研修企画 |
| 8 | 講師の人材確保 | 地域資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会 ・医療的ケア指導医 ・市民病院 ・医療機器業者 ・看護協会 ・横の連携として保健福祉局（予算が不要となる） |
| 9 | 市町村への支援 | 特別支援学校だけではなく小中学校に配置されている看護職員も参加し研修を開催する |

| 番号 | 課題 | 解決策 |
|-----------------|---|---|
| 10 | 指導的立場にある看護師の配置の需要が高く、看護職員のニーズ把握や他施設との連携等で活躍している自治体もあるが、配置している自治体が少ない。予算の確保等が難しい | (発表なし) |
| 11 | 学校における医療的ケアについて、管理職が詳細を理解する必要がある | (発表なし) |
| 12 | 教員が看護職員の役割等大事なポイントを把握するための研修が必要 | (発表なし) |
| (看護職員への研修以外の課題) | | |
| 13 | 教員と看護職員の連携 | 教員と看護職員をつなぐ役割を養護教諭、教頭、医療的コーディネーターが担う |
| 14 | 看護師の人材不足、人材確保のための看護師の不安解消 | 色々相談をする機関等工夫（各学校の看護師の悩み、質問をメールで教育支援委員会所属医師が対応、巡回指導月に1度、ライングループやメールを使つての相談体制の構築） |

3. 質疑応答

10:00～14:00 の間に Zoom のチャット機能にて受付けた。質問は合計4件あり、主な内容は、「看護師が同日に集まるのが難しい状況である。そのような場合の工夫について知りたい」、「常勤看護師と非常勤の看護師の学習会は、どのような時期や時間で行っているか参考にしたいので知りたい」等であった。その内容を、グループワークの時間迄に事務局より下山座長及び回答講師に連絡し、準備の上回答した。

4. 企画研修終了後の対応

1) 受講者を対象とした終了直後のアンケート調査の実施

企画研修終了直後に、受講者に対して Web アンケート調査を実施し、全参加者 53 人から回答を得た（結果は第3節参照）。

2) 不参加自治体へのフォローアップ

申込みをしていない不参加自治体に対し、当日の講義資料のダウンロード URL のご案内及び企画研修終了後に「学校における医療的ケア実施対応マニュアル（看護師用）」のファイル1部を送付した。

別添

3) プログラム

「学校における医療的ケアに関する看護職員の研修企画」研究協議会

12月4日(金)10:00～16:45 開催

| 日程 | 研修内容 | 講師 |
|-------------|---|--|
| 10:00～10:05 | 開会あいさつ | 佐藤 美穂子 (公益財団法人 日本訪問看護財団 常務理事) |
| 10:05～10:25 | 学校における医療的ケアの現状と課題 | 右田 周平 氏 (文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 課長補佐) |
| 10:25～11:05 | 教育委員会が企画する看護職員研修について | 津川 周一 氏 (北海道教育庁学校教育局特別支援教育課 特別支援教育振興係 主査) |
| 11:05～11:20 | 休憩 | |
| 11:20～11:30 | 「学校における医療的ケア実施対応マニュアル(看護師用)」の活用 | 菊地 よしこ (公益財団法人 日本訪問看護財団 事業部 課長) |
| 11:30～12:00 | 学校における看護職員とは | 奈良間 美保 氏 (京都橘大学 看護学科 教授) |
| 12:00～13:00 | 昼休憩 | |
| 13:00～13:25 | 有意義な研修開催のための提案① ・学校における医療的ケアに関する教育的な意義 ・校内体制の整備について | 中葉 哲郎 氏 (神奈川県立金沢養護学校 総括教諭) |
| 13:25～13:35 | 休憩 | |
| 13:35～14:00 | 有意義な研修開催のための提案② ・指導的立場にある看護師の役割とその育成 ・看護職員の経験等に応じた研修ニーズの把握と対応 | 植田 陽子 氏 (豊中市教育委員会事務局 児童生徒課支援教育係 係長/看護師) |
| 14:00～14:05 | 小休憩 | |
| 14:05～14:40 | 有意義な研修開催のための提案③ ・オンラインによる医療的ケア技術演習のデモ講義 ・高度な医療技術に関する研修実施の意義 等 | 石井 光子 氏 (千葉県千葉リハビリテーションセンター 第一小児科部長/愛育園 園長) |
| 14:40～14:50 | 休憩 | |
| 14:50～16:20 | グループワーク | 下山 直人 氏 (筑波大学 附属 桐が丘 特別支援学校 校長/国立大学法人筑波大学 人間系 教授) |
| 16:20～16:30 | 質疑応答 | |
| 16:30～16:45 | 総評・閉会挨拶 | |

第3節 企画研修受講者アンケート調査

企画研修受講者を対象に受講前後にアンケート調査を実施した。概要及び結果を以下に示す。

1. 調査概要

1) 目的

企画研修の評価・検証を目的とする。

2) 調査対象

企画研修を受講した53人を調査対象とした。

3) 方法

Google フォームを使用した Web アンケート調査とした。

4) 調査期間

・Web 研修前アンケート調査：(研修申込前) 令和2年10月12日(金)～11月6日(金)

・Web アンケート調査：令和2年12月4日(金)(企画研修終了直後)～12月23日(水)

※全員から回答が得られるまで実施

5) 調査内容

受講前後に調査を実施した。

【調査項目】

○受講前

- ・基本属性(所属自治体、役割、経験年数、医療的ケア児に関わった経験等)
- ・企画研修受講前に感じていた看護職員研修に関する課題や困難

○受講後

- ・企画研修が参考になったか
- ・構成、開催方法等の意見
- ・各講義について今後活かしたいか
- ・今後加えた方がよいと思う内容
- ・全体を通した感想
- ・看護職員研修に関する国への要望等

2. 調査結果

1) Web 研修前アンケート調査結果

(1) 受講者の所属自治体の種別

受講者は合計 53 名であり、うち政令指定都市所属 14 人、都道府県 39 人であった。

(2) 受講者の職種

受講者の職種は、指導主事 90.6% (48 人)、看護師 5.7% (3 人)、行政職 3.8% (2 人) であった。

図表 4-3-1 受講者の職種 (n=53)

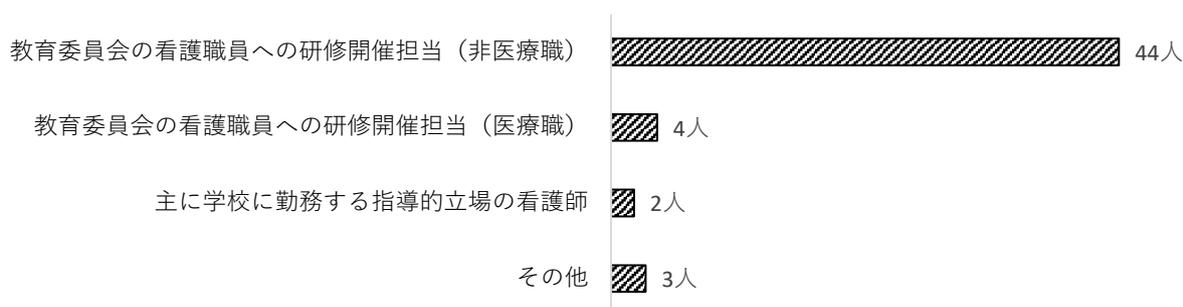


■ 指導主事 ■ 行政職 ■ 看護師

(3) 受講者の役割

受講者の職場での役割は、「教育委員会の看護職員への研修開催担当 (非医療職)」が最も多く 83.0% (44 人)、次いで「教育委員会の看護職員への研修開催担当 (医療職：看護職員等)」7.5% (4 人)、「主に学校に勤務する指導的立場の看護師」3.8% (2 人)、その他 5.7% (3 人) であった。

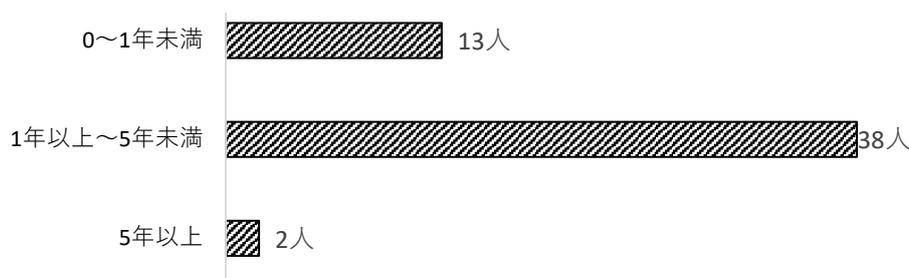
図表 4-3-2 受講者の役割 (n=53)



(4) 現職の経験年数

受講者の現職の経験年数は、「1年以上～5年未満」が最も多く71.7%（38人）、次いで「0～1年未満」24.5%（13人）、「5年以上」3.8%（2人）であった。

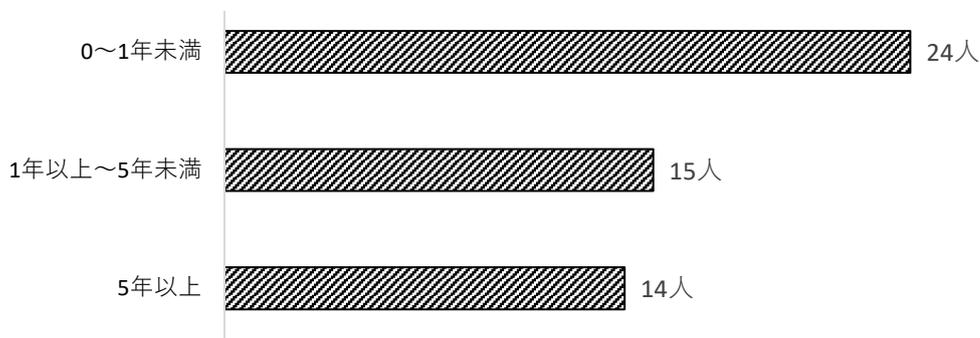
図表 4-3-3 現職の経験年数 (n=53)



(5) 学校で医療的ケア児に直接関わった経験年数

学校で医療的ケア児に直接関わった経験年数は、「0～1年未満」が最も多く45.3%（24人）、次いで「1年以上～5年未満」28.3%（15人）、「5年以上」26.4%（14人）であった。

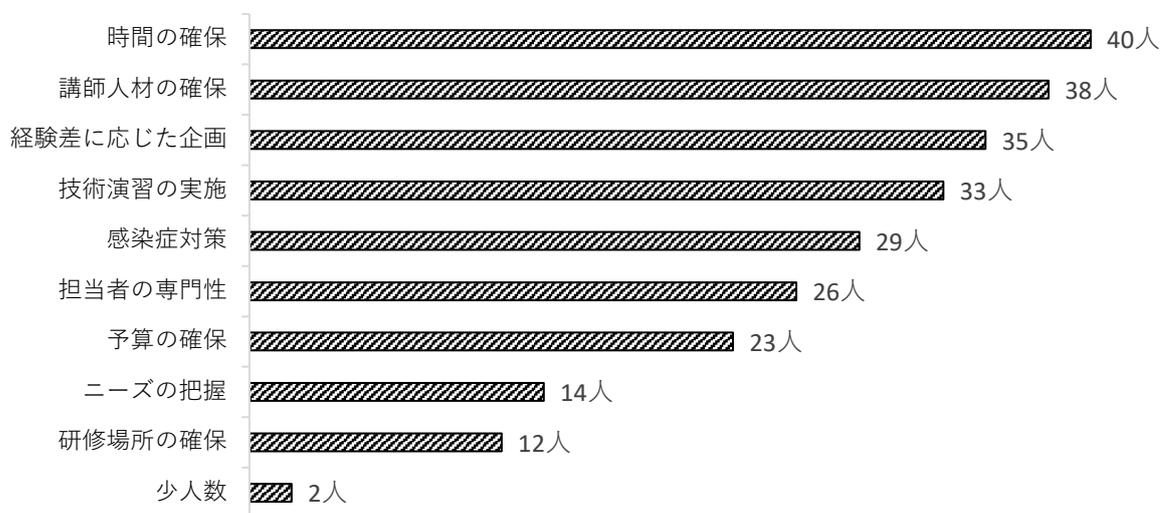
図表 4-3-4 学校で医療的ケア児に直接関わった経験年数 (n=53)



(6) 企画研修受講前に、学校に勤務する看護職員を対象とした研修に関して課題や困難と感じていたこと（複数回答）

受講者が企画研修受講前に、学校に勤務する看護職員を対象とした研修に関して課題や困難と感じていたことは「研修を開催する時間の確保」が最も多く75.5%（40人）、次いで「研修講師等の人材確保」71.7%（38人）、「看護職員による経験の差に合わせた研修の企画」66.0%（35人）、「医療的ケア技術演習の実施」62.3%（33人）、「新型コロナウイルス感染症に対応した研修の開催」54.7%（29人）、「看護職員の研修開催担当者としての専門性の向上」49.1%（26人）、「予算の確保」43.4%（23人）、「看護職員の研修ニーズの把握」26.4%（14人）、「研修開催場所の確保」22.6%（12人）、「小人数のため実施しづらい」3.8%（2人）であった。

図表 4-3-5 研修に関して課題や困難と感じていたこと (n=53)

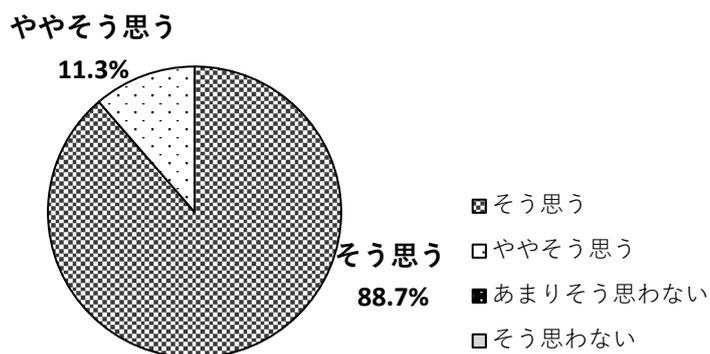


2) Web 研修後アンケート調査結果

(1) 学校に勤務する看護職員を対象とした研修を企画するにあたり参考になる内容であったか

そう思う 88.7% (47 人)、ややそう思う 11.3% (6 人) であった。

図表 4-3-6 参考になる内容であったか (問 1) (n=53)



上記選択理由 (自由記載) 48 件の回答

※ () 内の数字は同意見の回答数

【他自治体の取組みを知ることができた】

- ・他自治体の課題や取組について知ることができ今後の参考となる内容が多く有用だった。(17)
- ・本県では、学校看護師1年目の看護師に特化した研修や、4月当初の研修は行っていないので、今後の研修を改善していく上で他の自治体の取組は大変参考になった。
- ・他の自治体がどのように看護師の研修を行っているか、これまで詳しく知る機会がなかったが、今回の研修では、研修内容、講師の選定の仕方、開催の仕方等を知ることができ、非常に参考になった。
- ・グループワークで解決策のヒントをもらった。
- ・他県等の担当者や、課題の共有や対策の検討について協議することができた。
- ・協議では、各自治体の実態等をお聞きすることができ、連携先や研修の工夫など具体的に協議ができたことがとても参考になった。
- ・各自治体の方とオンラインで情報交換をすることができ、有意義だった。

【看護職員への研修課題や意義が明確になった】

- ・県の研修における課題（看護師のニーズ・ラダーについて考えていく必要性、緊急時対応のための実技研修の必要性）が明確になった。
- ・看護師との協働に向けてより一層取り組まなければならないと考えさせられた。
- ・本研修を行う意義の説明や看護師など異職種の方々の発表を聞くことができ、現在教育委員会に求められる役割について意識を高めることができた。
- ・看護師主体で研修を企画していく必要性を感じた。

【研修開催の参考になった】

- ・看護職員のための研修会内容等すぐに活用できる情報が多くあり、具体的イメージを持つことができ、参考となる内容だった。(2)
- ・看護師の研修会を企画するに当たって具体的に参考になることが多かった。(2)
- ・学校での医療的ケア経験年数に応じた研修の取り組み等とても参考になった。これから行う研修で参考にしたいと思う。
- ・オンラインの活用を含め、実情に応じた研修のアイデアをもらえた。
- ・テキストの活用や実践報告等が非常に参考になった。
- ・研修資料として即活用できる資料提供は大変ありがたく、また、研修内容や研修時期、研修方法に関する他県の取組状況が参考となった。
- ・研修内容、時期、講師選定等、充実した具体例が示されていた。
- ・研修企画のプロセスや課題等における参考事例を知ることができた。
- ・どんな研修が必要かということを確認できた。
- ・看護師研修の必要性や学校看護師の戸惑いや不安を解消する研修会の内容が具体的に示されていた。

- ・学校看護師の研修内容について検討していたこともあり、大変参考になった。
- ・学校看護師として経験の幅から看護師が求める研修内容も異なってくることを理解し、研修ニーズの把握を行っていくことの重要性を改めて認識した。
- ・必要な研修内容や連携できる関係機関等を知ることができた。
- ・研修計画について、他県の状況、先進の取り組みについて具体的に学ぶことができ、実際に活かせるような内容であった。
- ・学校に勤務する看護職員を対象とした研修をどのように実施していくか検討中なので、参考になった。
- ・研修内容が実例もあり具体的で分かりやすかった。
- ・他の自治体が実施している看護職員向け研修の内容について、本県の看護師にとっても研修ニーズとなっているため、今後研修を組んでいくことへの参考になった。

【看護職員の研修ニーズが見えてきた】

- ・看護師のニーズがわかるとともに、研修資料の提供があった。
- ・研修内容を検討する上で、看護師のニーズが見えてきた。

【様々な視点の話を聞くことができた】

- ・いろいろな立場、視点から研修について考えることができた。
- ・色々な視点からの話を聞くことができ、大変参考になった。
- ・医師 指導的立場となる看護師 教員等、それぞれの立場からの話を伺うことができた。
- ・各立場からの情報で、立体的に見ることができた。

【最新の取組み等を聞くことができた】

- ・先進的な取組みを聞くことができた。
- ・最新の知見について、知ることができ有用だった。
- ・先進的に研修をされている自治体の話がとても参考になった。

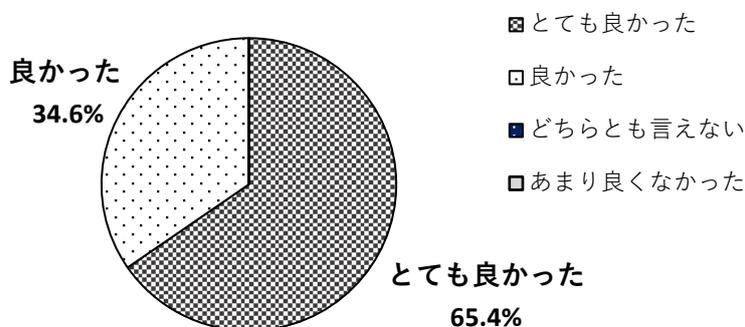
【講義内容が参考になった】

- ・具体的な事例を聞くことができた。
- ・講義が参考になった。
- ・国の動向を知ることができた。
- ・学校における医療的ケアの現状と課題を理解することができた。
- ・各自治体によってシステムは異なるが、参考となる話をたくさん聞くことができた。

(2) 本研修会の構成について

とても良かった 65.4% (34人)、良かった 34.6% (18人)であった。

図表 4-3-7 本研修会の構成について（問2）（n=52）



上記選択理由（自由記載） 40 件の回答

※（ ）内の数字は同意見の回答数

【様々な立場からの幅広い講義構成だった】

- ・様々な立場での話を聞くことは大変有効だった。(5)
- ・教育委員会、学校、看護師、医師等、発表してくださった方の立場も様々であり、それぞれの視点からのお話を聞くことができたので非常に良かった。(2)
- ・看護、行政、学校の立場で幅広い内容であった。
- ・様々な専門家の講義を受けることができた。

【講義内容が参考になった】

- ・看護師も受講したら良さそうな内容もあった。
- ・研修企画をどのようにしていくのか、大変参考になった。本日学んだ内容を取り入れ、できるところから進めていきたい。
- ・研修資料の使い方や実際の研修内容を知ることができた。
- ・教育委員会の立場からほしい情報がたくさんあった。
- ・行政説明、各自治体等からの取組について具体例の紹介があり、医療的ケアを学校現場にて実施することの教育的意義を改めて確認することができた。
- ・研修会で扱う情報も非常に参考になった。
- ・講師の人選がとてもよかった。

【マニュアルを活用した講義方法が示された】

- ・マニュアルの説明や各自治体の取り組みなど多岐にわたる内容であった。
- ・今年度から医療的ケアの担当になったこともあり、医療的ケアマニュアルも活用した講義が受けられて勉強になった。

【研修目的が明確だった】

- ・研修の始めに現状及び本研修の意義を丁寧に説明していただいたことで、研修を受ける目的が明確になった。
- ・目的が明確に示された上での構成となっていた。
- ・各講義の目的がはっきりしていて分かりやすかった。

【講義とグループワークの構成がよかった】

- ・基礎知識に係る講義と、協議で構成されていること。
- ・文科省公表データ説明については割愛し、グループワークの時間枠をより多く設定することで、協議が深まると感じた。
- ・午前に概論や方向性を確認し、午後の提案、協議で深めることができた。
- ・研修の必要性から研修のあり方まで流れに沿った説明であった。
- ・いろいろな自治体の取組み等を講義形式で聞いた後に協議することが、内容を深められる構成になっていてよかった。
- ・全体の概要から具体になっていくことで、課題の整理がしやすかった。
- ・前半は講義、後半はグループワークで主体的に参加できた。
- ・流れがスムーズだった。
- ・看護師研修の概要から始まり、マニュアルについての説明、看護職員の役割、そして有意義な研修開催についての提案、グループワークという順番で、研修企画について考えを深めることができた。

【グループワークが良かった】

- ・色々な自治体の研修の状況を知ることができた点がとても良かった。(2)
- ・各自治体の方とグループ協議も大変実りあるものだった。
- ・グループワークがよかった。

【時間構成が良かった】

- ・非常にバランスのよい、流れのあるプログラム構成であった。
- ・よいバランスだった。こまめな休憩があるのも良かった。
- ・講義が30分単位であったため非常に集中して参加できた。
- ・短い時間での講義であったため集中できた。
- ・一つ一つのプログラムがコンパクトで効率的だった。

【オンラインという方法が良かった】

- ・オンライン研修実施にあたっての配慮等があり、このような体験は貴重だった。
- ・全国から1ヶ所に集まり開催することも大切だが、コロナ禍だけでなく経費がかかることも考えるとWeb講義では、多くの方々の参加ができたのでとても良かった。
- ・オンラインでの開催により移動時間等がなかったのは良かった。

- ・今後の新しい生活様式の中での協議会のあり方について、非常に有益な知見を得られた。
- ・オンラインでも情報交換の場があり良かった。

【オンライン開催の難しさを感じた】

- ・オンラインで1日の開催というのは、拘束時間が長くなってしまうので、部分もあると思った(議会对応等がある時期のため)。
- ・内容は良かったが、オンラインでの研修の難しさを感じた。

【その他】

- ・午後が参加できなかったので、他都市の状況を掴みたかった。

(3) 今後、本研修に加えた方がよいと思われる内容（自由記載） 28件の回答

今後、企画研修に加えた方がよいと思われる内容に対する意見として、研修テーマについて、研修開催方法に対する提案、看護職員を対象とした研修開催等がみられた。なお、()内の数字は同意見の回答数とする。

① 研修テーマについて

【他自治体の看護職員研修の具体的な取組み】

- ・他県や他市の取組みをもっと知りたい。(3)
- ・今回のように看護師研修に関する多様な実践事例が知りたい。
- ・他の自治体の研修の状況が、一覧になっているものがあるとよい。自治体の規模によって差があると思うが、それぞれの取組みについて参考にしたい。
- ・小中学校1校に1人の看護師を配置している自治体の研修内容など。
- ・第3号研修以外で、教員が対象となる医ケア関連の研修の具体的な実践例が知りたい。

【看護職員の採用や配置プロセス】

- ・指導的看護師の役割の実際、採用の形態。
- ・指導的立場の看護師を配置するプロセス。
- ・非常勤を含む会計年度任用職員の研修の企画や工夫について。

【医療的ケアの実践に関する情報】

- ・医療的ケアに関する最新情報について。
- ・安全・安心な医療的ケア実施に向けて大事にしている事項。
- ・通常の学級で行われている医ケアの様子。
- ・呼吸リハビリテーションの実技・ポジショニングについて。

【看護職員に関する好事例の紹介】

- ・人選が難しいが、実際に学校で働かされている看護職員の方も含めた好事例があったら、話を聞きたい。
- ・学校看護師がうまく機能している県や市、学校の取り組みを具体的に知りたい。

【看護職員の戸惑い】

- ・この研修の受講者は、学校や教員など教育側の方が多く、病院や訪問看護などで働く看護師の職務などを知らないことが多いと思うので、学校に初めて勤務する看護師の戸惑いがどのようなものかなどを知るきっかけになるような研修内容があると良いと思った（講義の中で「生徒児童」と「患者さん」の呼び名の違いなど、「当たり前の違い」を改めて認識した）。

【その他】

- ・学校看護師へのサポート体制について、新型コロナウイルス感染症のこともあり ICT 活用も含めて具体的な取組の詳細を知りたい。
- ・リモート環境での実技研修の持ち方。
- ・児童生徒の指導目標達成のための研修企画について。
- ・今回の研修会を受けての各自治体による研修会の変容や実施状況等についての報告等の情報交換があるとさらに参考になる。

② 研修開催方法に対する提案

- ・質疑応答時間が少なかった。オンラインの研修では意見が出しやすいので、時間を設けて各自治体の課題等に対する意見がほしかった。
- ・音声でのやりとりに加え、チャットの活用をもう少し進めても良いかもしれない。議論の焦点化や記録という面で有益と考える。
- ・リモートでの協議はアイスブレイクに時間がかかるため、協議の時間をもう少し長くとする。

③ 看護職員を対象とした研修開催

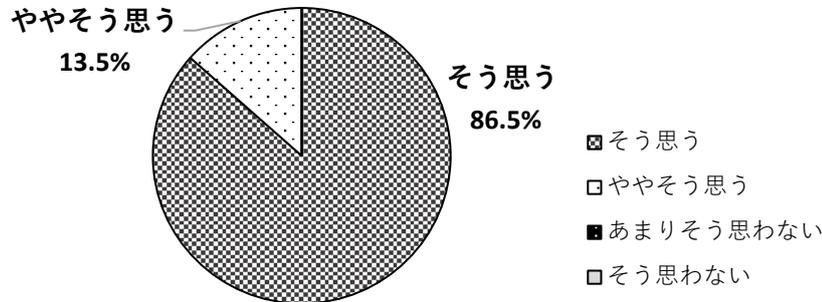
- ・看護師向けの研修や講座を Web で行ってほしい。
- ・可能であれば、看護師同士の意見交換等交流の場を提供してほしい。

(4) 各講義の感想・意見

① 講義「教育委員会が企画する看護職員研修について」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思うか

そう思う 86.5% (45 人)、ややそう思う 13.5% (7 人) であった。

図表 4-3-8 各講義の感想・意見（問3）（n=52）



上記選択理由・感想（自由記載）

41 件の回答

※（ ）内の数字は同意見の回答数

【具体的取組みが参考になった】

- ・北海道の具体的な取組を聞いてよかった。(2)
- ・大変、参考になった。(2)
- ・看護師研修の内容についてよくわかった。(2)
- ・本県においても、学校看護師への研修内容を整理する際に、考え方など役立つ内容であった。いただいた資料も研修で活用したい。
- ・研修企画のプロセス例は大変参考になった。
- ・自治体により状況はさまざまではあるが、実際に計画されている方からの講義でイメージしやすかった。
- ・オンライン研修等、教育委員会として研修の機会を積極的に準備し、提供している姿勢を見習い、参考にしていきたい。
- ・教育委員会の役割や研修の課題等が参考になった。
- ・北海道の積極的取り組み、ワーキンググループの考えが参考になった。看護師が医師のいない中で不安、特に初任者への配慮が必要な所は本県でも課題である。
- ・どのような目的をもって開催するか、という点がよく理解できた。
- ・大変先進的な取組をされていて、勉強になった。
- ・令和3年1月にYouTubeで講義を事前学習として発信することも含め、たいへん参考になった。北海道と実態が大きく異なるものの看護職員へのアンケート調査項目も拝見したい。
- ・講義の内容を研修会で活かしたい。

【アンケート調査に基づいた看護職員の研修ニーズが参考になった】

- ・アンケート結果を基にした情報提供や事例紹介もあり、今後の参考になった。(2)

- ・看護師アンケートでのニーズ把握などが参考になりました。本県においてもニーズを整理し研修を計画して行きたいと思う。(2)
- ・アンケート結果から看護師のニーズがわかり、研修計画を立てる時に参考になると思った。

【アンケート調査に基づいた立場による研修ニーズの違いが参考になった】

- ・「学校における医療的ケアに関する実態調査」の結果により、各職種の意識の違いを知ることができ参考になった。
- ・研修ニーズのアンケート結果について教育委員会担当者と看護師とで違う点を踏まえ、本県でももう少し丁寧にニーズを把握する必要があると感じた。
- ・現場の学校看護師の研修のニーズと委員会が考える研修内容の違いや看護師の勤務年数の長短によるニーズの違いを確認することができた。
- ・企画側と研修側のニーズの違いや優先度の違いなど企画する際の根本的な事項を知ることができた。
- ・看護師と教育委員会担当者間とで研修ニーズが異なっていることがわかり、参考にしたいと感じた。
- ・教育委員会のある意味想像した研修ニーズと、看護師の直接的なニーズのずれが、可視化され非常に興味深いデータを提供してもらえた。今後念頭に置いて研修を企画していきたい。

【看護職員の研修ニーズ把握が不十分なことに気付いた】

- ・本県では研修参加申込の際に講師への質問を聴取していたが、研修の内容に対するニーズ把握については十分ではなかった。

【看護職員への研修の重要性を理解した】

- ・学校看護師としての経験年数に応じた研修内容の必要性について再確認できた。
- ・何のために看護師研修が必要なのかということが十分に分かっていないまま研修を企画しても的外れになるだけであると思うので、看護師研修を企画するということに対して、基本的なことから丁寧に説明してもらえて大変わかりやすかった。
- ・学校で初めて働く看護師に対する研修の重要性を感じた。
- ・さらなる看護師研修の充実を図りたいと思えた内容だった。
- ・学校看護師の研修内容として、特別支援教育そのものに関することも必要であることが理解できた。
- ・看護師研修の必要性について、理解することができた。
- ・改めて看護師と学校職員の文化の違い、環境の違いを考えることができた。強く意識して業務にあたりたい。

【教育委員会としての視点の講義により自身の役割を理解できた】

- ・教育委員会での経験をもとにした講義で、多くのことに気づかされた。
- ・同じ立場である教育委員会として、取組を交えての発表内容が参考となった。
- ・看護職員の研修に係る教育委員会の役割について、分かりやすく具体的だった。
- ・医療現場と学校では、勤務の仕方が異なる。1人での対応のため、安心・安全に勤務できるよう、教育委員会の役割は大きいと思った。
- ・アンケート結果も踏まえながら教育委員会の役割を明確にすることができた。
- ・教育委員会としてどのような体制整備が必要か、参考になった。

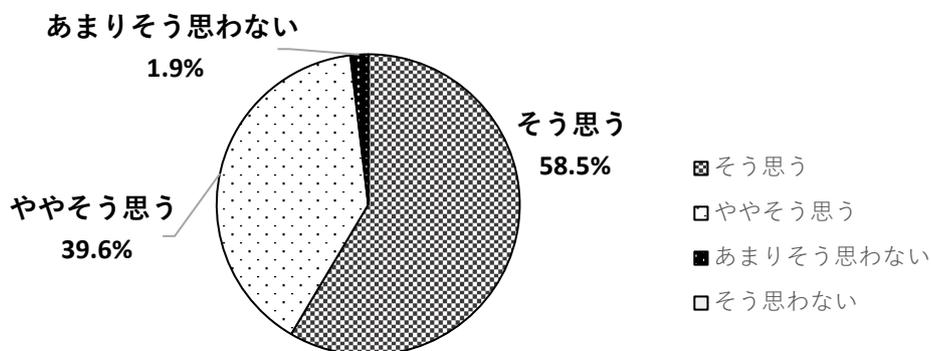
【活かせるか難しい】

- ・現状と課題は共通することが多くよく理解できた。しかし今後の研修に活かせるかという点で難しい。

② 講義「学校における看護職員とは」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思うか

そう思う 58.5% (31人)、ややそう思う 39.6% (21人) あまりそう思わない 1.9% (1人) であった。

図表 4-3-9 各講義の感想・意見（問3）（n=53）



上記選択理由・感想（自由記載） 36件の回答

※（ ）内の数字は同意見の回答数

【看護職員に対する研修内容の参考になった】

- ・これまでの研修では、子供の成長・発達や学校における多職種連携の視点を十分取り入れているとは言い難く、今後の研修企画の際には参考にしたい。
- ・参考となる話を伺うことができた。
- ・看護職員に対する研修を考える上で、基礎的な考え方を学ぶことができた。

- ・医療的ケアの近々の課題を主に扱う研修テーマが多い（看護師のニーズ）が、このような視点での研修内容も必要だと感じた。
- ・新任用の学校看護師への研修内容について再度点検したいと思った。
- ・成長・発達の視点から子供をとらえること、そのことを看護師に理解してもらうことが改めて大事だと感じた。
- ・特に初任看護職員に子供の成長・発達段階に応じて教員とどのような連携を図らなければならないのか、講義する際に必要な内容であると感じた。各自治体で実態に応じた説明等を加える必要はありますが、共通の認識として奈良間先生の講義を全国の学校看護師に提供できたらとても勉強になると感じた。
- ・本県の看護師研修会で伝えていきたい内容だと感じた。

【看護職員の役割を理解できた】

- ・学校における看護の役割、重要性を再認識できた。(3)
- ・学校看護師が果たすべき役割を理解することができ、学校看護師に対して考え方を説明する際の参考となった。
- ・学校における看護の基礎について、振り返ることができた。
- ・小児看護の特徴や学校における看護、多職種や家族との連携など、学校看護師にとって基本的な立ち位置について整理できた。看護師研修会での内容に盛り込みたい事項であった。
- ・看護師はケアだけでなく、発達や教育についても知っておく必要があると感じた。
- ・看護師に求められていることがわかった。
- ・学校で働く看護師の役割や教育の場で働くための考え方などを知ることができた。

【多職種連携の必要性を理解した】

- ・子供の発達を踏まえた医療的ケアや他職種連携等参考になった。
- ・学校看護師の役割が医療技術だけでなく、保護者や学校関係者との協働で成り立っていること、少数職種を孤立させない、管理職の手腕も必要であると感じた。
- ・横断的調整という面から他職種連携の必要性を具体的に理解できた。
- ・他職種との協働について、詳しい内容がわかった。
- ・職種間等の連携・協働の重要性について、改めて確認できた。
- ・役割分担についての考え方については、おそらく協議会一つのテーマともなりそうな大きな話題だと思う。改めて自分の自治体の中でどう見ていくか考えたい。

【成長発達の視点を理解した】

- ・成長・発達の視点から多くのことに気づかされた。
- ・子供の発達について、学校看護師としての役割や協働のポイントについて等、幅広く必要な内容だった。

- ・医ケア児であっても、人間としての発達をおさえることの重要性を感じた。
- ・看護師もケアだけでなく子供の背景を踏まえたうえでケアを行う必要があることを再確認した。
- ・学校が子供に与える影響は大きいので、子供の成長・発達を見据え、学校の教員と看護師が連携し、考えていく必要があると思った。

【看護職員の戸惑い・悩みを理解した】

- ・教育現場と医療現場の違いから看護師が悩んでいる声を聞き、その中でどのように連携していくかという話が参考になった。
- ・学校と病院の職場の違いは学校看護師にとって非常に大きな戸惑いということを改めて感じた。

【看護職員の視点の講義が参考になった】

- ・学校看護師と病院看護師、保護者にとっては同じ「看護師」と言われたのが印象的だった。学校は病院ではなく、療育機関でもない。小学校1年生で入学してくるケア児の保護者に対して、学校の仕組みをどの場でどのように説明するかも重要であると改めて感じた。
- ・看護職員の立場から、学校という場で医療をすることの意義を聞くことができ大変参考になった。

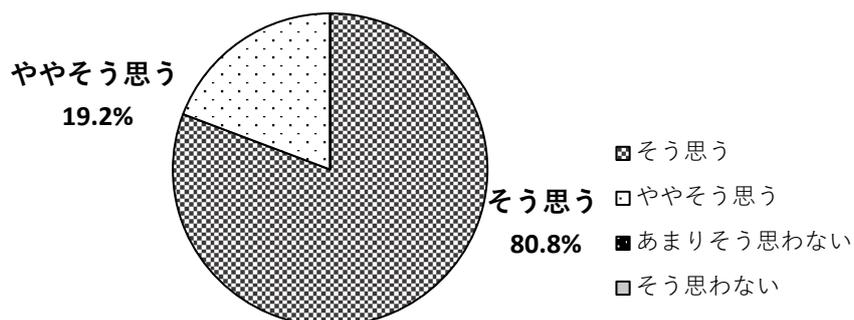
【「学校における医療的ケア実施対応マニュアル 看護師用」の活用について】

- ・学校における医療的ケア実施対応マニュアルを研修で活用するイメージをもつことができた。(3)
- ・看護師が学ぶべきことが、テキストを基に具体的に示されており、テキストを活用するにあたっての参考になった。(2)
- ・テキストを使用した研修について検討していきたいと思った。
- ・本テキストを活用した研修を行う際に活かしたい。

③ 講義「有意義な研修開催のための提案①学校における医療的ケアに関する教育的な意義/校内体制の整備について」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思うか

そう思う 80.8% (42 人)、ややそう思う 19.2%、(10 人)、であった。

図表 4-3- 10 提案①を今後の看護職員研修に活かしたいと思うか (問 3) (n=52)



上記選択理由・感想 (自由記載) 37 件の回答

※ () 内の数字は同意見の回答数

【看護職員との協働の重要性を理解できた】

- ・少数派である看護師を組織の一員として扱うことの大切さを学んだ。
- ・教員と看護師の役割と連携について整理されていて参考になった。
- ・学校側の立ち位置での看護師との連携が参考になった。
- ・看護師に求められていること、教員に求められていることがわかった。
- ・教員と学校看護師との連携の重要性について、お互いの立場になって、改めて考える良い機会となった。
- ・学校の看護師の役割がよくわかり、教員との連携の重要性を改めて感じた。年度当初に新任看護師の研修として、このあたりをテーマに研修している自治体もあり、参考になった。
- ・看護職員と教員がお互いに専門性を認め合うことのために必要なことについて改めて考えることができた。
- ・学校看護師が教員と協働していくために、必要な内容だと感じた。
- ・校内体制を整える重要さがよくわかった。
- ・医療的ケアを実施する学校内の体制整備について参考となった。
- ・各学校の校内体制を整備するうえでも、講義の内容を取り入れていきたい。

【「指導目標達成のため」という言葉に共感した】

- ・先生の講義の中にあった「看護職員は医療的ケアのみならず、児童・生徒の指導目標達成のために学校にいる。」という言葉、今後学校看護師の新任研修等講義の中で使いたいと思う。
- ・児童生徒の目標達成のために、教員も学校看護師もいるという強い思いが伝わった。
- ・「児童・生徒の指導目標達成のため」という大原則について、力強くメッセージを送っていただいた。
- ・児童生徒の自立活動等の指導目標達成のために看護職員が学校にいて、協働することを学校看護師が理解することの必要性を改めて感じた。
- ・指導目標達成のためという言葉に同感である。研修会などで共有していきたい。
- ・指導目標達成のために、教育活動と医療的ケアの密接な連携が必要だということが明確になり、研修に取り入れなければいけないと認識できた。

【医療的ケアをする看護職員の教育的意義を理解した】

- ・医療的ケアの教育的意義、教育的効果等医療的ケアを実施する目的の一番大事にした点をおさえた講義だった。
- ・学校は児童生徒が伸び伸びと学校生活が送れるように支援するものであることに共感する。教員役割、学校看護師の役割がそれぞれ理解されていないとならない。
- ・教育的な意義について確認できてよかった。
- ・学校看護師の存在意義、また医ケアと教育の関係について理解することができた。
- ・医療的ケアを教育として捉える力強いメッセージをいただき、心強かった。
- ・医療的ケアの行為そのものが、子供によっては学びとなるという新たな考えを持つことができた。

【看護職員への研修内容の参考になった】

- ・看護師を対象とした研修内容の一例は、参考としたい。(2)
- ・看護師の困り感や研修プログラムの実例など、課題に対してどのような研修を行うのか、関連付けて紹介されたことで、研修企画の手順について参考になった。
- ・指導主事という立場で医療的ケアに関わってきた経験からお話しいただき、第3号研修における看護師の研修について参考になった。
- ・自立活動の意味などの教育活動に対する理解や、看護師も学校教育における重要な役割を担っていることをしっかりと伝えられているか反省するところも多かった。今後の研修企画に役立てたい。
- ・教育委員会と学校で行う研修の内容が明確にされており、大変参考になった。勤務校での、講師は誰が務めているのかが気になった。
- ・看護師の役割、研修内容等が分かった。

- ・看護師と教員との連携を上手く図るために、「連携しましょう」、「もっとコミュニケーションとりましょう」だけでなく、研修の機会を設定し、児童の理解を一緒に行うことが良い連携につながることを感じた。
- ・学校の教員と看護師が、それぞれの役割を明確にして連携しながら子供の教育活動を支援することの必要性がわかりやすく理解できた。看護師間や学校への研修に加える。
- ・教員には自立活動の視点からの医療的ケアの話をしたことがあるが、看護師にはこれまでしていなかったもので、これから取り入れていきたい。
- ・特に小児看護ステップアップ研修（8月実施）の内容（講義テーマ）をはじめ、初任者に対する研修のポイントとして参考になった。

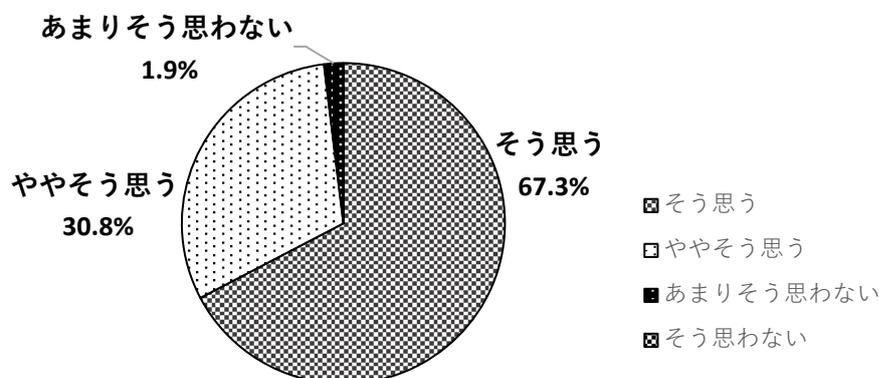
【その他】

- ・教員と看護師が協働し、教育として医療的ケアを実施していること、課題や研修での取り組みを丁寧に説明していただき、大変わかりやすかった。
- ・病院で行ってきたケアには自信があり、研修の機会もあるが、地域で生活しながら医療的ケアを受けるということがどういうことか、教育現場での看護師の役割について不安があるという声をきいているため参考になった。
- ・教育の現場と医療の現場の相違があるが、学校に勤務する看護職員に不安なく取り組んでいただける策が必要であると感じた。
- ・参考となる話を伺うことができた。

④ 講義「有意義な研修開催のための提案②指導的立場にある看護師の役割とその育成/看護職員の経験等に応じた研修ニーズの把握と対応」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思うか

そう思う 67.3% (35 人)、ややそう思う 30.8% (16 人)、あまりそう思わない 1.9% (1 人) であった。

図表 4-3-11 提案②を今後の看護職員研修に活かしたいと思うか（問3）（n=52）



※（ ）内の数字は同意見の回答数

【指導的立場にある看護師の役割・重要性を理解した】

- ・指導的立場の看護師の役割を具体的に知ることができ、その必要性を感じた。(2)
- ・指導的立場の看護師が担う役割やマネージャーとしての職務内容を詳しく示していた点特に参考になった。(2)
- ・指導的な看護師のすばらしさを感じた。
- ・指導的立場の看護師が研修企画等に具体的にどの様に関わるかイメージできた。
- ・指導的立場となる看護師の役割等についてイメージができた。
- ・指導的立場となる看護師の役割について、理解することができた。
- ・自治体によって異なる部分はあると思うが、マネージャーとしての役割をする看護師の在り方は参考になった。
- ・指導的立場となる看護師の育成における現状と課題を知ることができ、今後の参考になった。
- ・本県と状況が違う部分もあったが、指導的看護師の役割についてより明確になった。
- ・指導的立場の看護師がいることで実務をする看護師の安心等につながることに、研修を企画し運営することについて理にかなっていると思った。指導的立場の看護師について、そのような看護師がいればと思うが、配置人数などの課題とともに、予算との兼ね合いが難しいと思っている。
- ・看護師としての立場からお話をいただいた中で、「看護師の研修は看護師以外が企画することは難しい」とあり、指導的立場となる看護師の重要性を再認識できた。

【指導的立場にある看護師の配置に向けて参考になった】

- ・本県では全ての看護師が会計任用職員であることから、直接的には活用はできないが、指導的立場の看護師が実際にどのような活動をしているのかを知ることができ、今後導入を検討していくうえで参考になった。
- ・指導的な立場となる看護師の設置について、考える良い機会となった。
- ・本県では指導的看護師を配置していない状況であるが、学校看護師と教員の役割を理解させるため、看護師の不安解消のために、配置できると良いと考える。
- ・指導的な立場の看護師についてたまたま検討中のため参考になった。
- ・指導的看護師は重要な役割であると感じたこととともに、本県では、まだ指導的看護師がいないので、どのように導入または、同じような役割の人をつくっていくのか考える必要がある。
- ・本県では指導的な立場の看護職員を配置していないので、どのような仕事をされているか知ることができ、今後に生かしたいと思った。

- ・指導的立場の看護師について、今後導入していく予定であり、実際に行っている具体的な研修内容等が参考になった。
- ・指導的な立場の看護師の設置に取り組んでいるので、必要性をさらに感じた。
- ・指導的看護師の在り方については、現在進行形で検討している内容となる一方で諸課題も見えてきている現状である。今後も「指導的看護師」という立場を作るかどうかも含め検討を進め、学校での医療的ケアのマネジメントや「裁定」機能がどうあるべきかについて結論を出していきたい。

【研修開催の取組みが参考になった】

- ・研修への取組みが充実しており、各機関と連携体制がきちんとしていていると感じた。これまで丁寧に取組まれた結果なのだろうと思った。
- ・様々な研修プログラムが経験年数に応じて、設定されているのが素晴らしいと思った。離島も含めた広範囲に渡る本県の状況で、どのような進め方ができるか検討しなければと思う。
- ・実際にどのように看護師研修を行っているかについて、内容や講師等、参考にさせてもらいたい情報が多く、とても勉強になった。
- ・自らテーマを考えて自主的に取り組むような形式は理想となる形であると思った。
- ・学習会で看護師の皆さんがどのようなテーマ設定をして研究されているのか知りたいと思った。また、看護研究や学習会を行うことにより看護師のモチベーション向上につながると思った。
- ・技術演習の講義を受けることにより手技に対する不安の軽減につながるため今後の研修会の在り方に活かしていきたい。
- ・研修の機会がとても多く、全てを参考にすることは難しいと感じたが、具体的に研修内容を示してくれたことで参考になった。
- ・教育委員会の看護師として、きめ細やかな研究計画を立てているとともに、指導的立場となる看護師の資質向上に向けた提言など、大変興味深かった。

【指導的立場にある看護師からの講義そのものが参考になった】

- ・看護師の立場からのお話が大変参考になった。
- ・指導的な立場にある看護師のお話を直接伺えたことは大変貴重であった。
- ・看護師の立場からの講義は多くのことに気づかされた。
- ・同じ指導的立場の教育委員会の看護師として勉強になった。

【看護職員の研修ニーズの把握の重要性を理解した】

- ・講師がおっしゃった「看護師の研修を看護師以外の方が企画するのは難しい」に同感した。だからこそ様々な方々から意見（ニーズ）を聞く必要があるのだと感じさせられた。

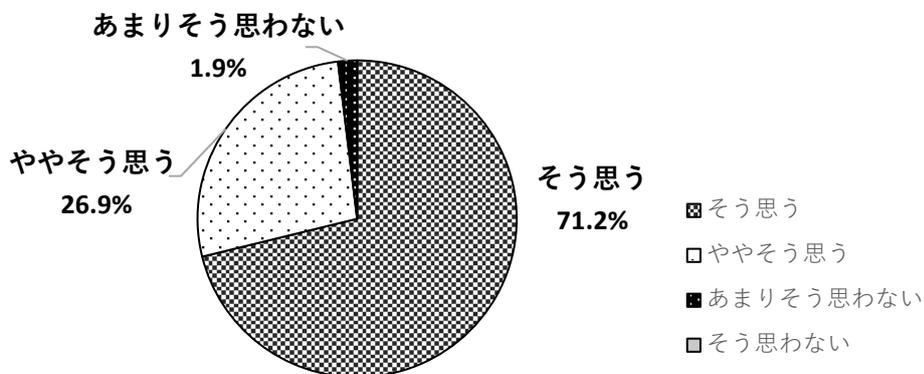
- ・研修内容の決定には、教育委員会だけではなく、看護師（指導的な立場の看護師）との調整の必要性を感じた。
- ・看護師以外が看護師の研修を企画するのは難しいという言葉が目からうろこだった。

【講師の自治体の取組みが参考になった】

- ・講師の自治体と当県の状況と照らし合わせながら、取り組みのエッセンスを抽出したり、変換させたりしながら取り入れられるものを見つけていきたいと思った。
- ・校内体制を整える重要性がよくわかった。
- ・小中学校の医ケアについての情報、配置形態が参考になった。
- ・講師の自治体の対策は、いつも参考になる。
- ・参考となる話を伺うことができた。
- ・講義全体がたいへん分かりやすく、なおかつ医療的ケアを学校全体で自分のこととして捉えることが円滑に運営することにつながると改めて確認した。

- ⑤ 講義「有意義な研修開催のための提案③オンラインによる医療的ケア技術演習のデモ講義」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思うか
 そう思う 71.2% (37 人)、ややそう思う 26.9% (14 人)、あまりそう思わない 1.9% (1 人) であった。

図表 4-3-12 提案③を今後の看護職員研修に活かしたいと思うか（問3）(n=52)



上記選択理由・感想（自由記載） 41 件の回答

※（ ）内の数字は同意見の回答数

【医療的ケアの研修開催に活かしたい】

- ・テキストに沿いながらの説明であり、看護師研修にあたっての参考になった。(2)
- ・緊急時対応のための研修の実施について、考えていくべきだと感じた。
- ・同じような内容を今後、研修会で取り入れたいと考える。
- ・本県の実態に合わせて、講義の内容を参考にしていきたいと思う。

- ・適時最新の知見を取り入れて行く必要はあるだろうが、有益な研修をストックしておくことができそうに思えた。
- ・医ケアの内容毎に説明をいただきながら、自分が研修を企画した場合を模擬的にイメージすることができた。
- ・看護師の専門的な研修の必要性も感じた。
- ・医療的ケアを学校全体で自分のこととして捉えることが円滑に運営することにつながると改めて確認した。また、技術演習の講義を受けることにより手技に対する不安の軽減につながるため、今後の研修会の在り方に活かしていきたいと思う。

【看護職員が求める研修だと思った】

- ・看護師のアンケートがまさにこのような研修を求めている。
- ・この内容は、看護師に受講してもらいたいと感じた。
- ・看護師に聞かせてあげたい貴重な内容だった。専門的なことを学ぶ貴重な機会である。
- ・医療専門職ではない私たちには難しい内容もあったが、看護師の研修内容としては重要な内容だと思う。
- ・ケアの具体的な動画や講義は、学校看護師が必要としているものだと思う。

【研修開催者として医療的ケアのイメージがついた】

- ・具体的に映像で見ることによって、イメージできた。(2)
- ・具体的な実技の研修を見るのは初めてで新鮮だった。実際のヒントになった。
- ・専門的な内容で、十分な理解は難しかったように思うが、研修を企画する際の参考になった。
- ・医療技術に関する内容を知ることができた。
- ・自分の経験では、医療的ケアのお子さんとの関わりは多くなく、担当として、ケアの実際について、知っておくことは大切である。動画など分かりやすい勉強になった。
- ・重度の医ケアである人工呼吸器の管理を学校で実施する際のポイントが、具体的でわかりやすかった。
- ・動画等も提示くださり、大変勉強になった。
- ・看護師研修をする上で、基本的な技術についての確認になった。
- ・動画を交えていただいたことにより、難しい内容であったが理解しやすく、医療的ケアの難しさを改めて知ることができた。
- ・気管カニューレの再挿入研修場面等、貴重な映像を拝見することができた。
- ・参考となる話を伺うことができた。

【講義・教材が分かりやすかった】

- ・先生の資料が具体的かつ詳細で、即研修に役立つものであった。

- ・マニュアルの内容についてご講義や動画等での説明をいただき内容理解につながった。マニュアルを周知する際には、こういったマニュアルの内容についての講義があるとよい。
- ・医療的ケアの手技について写真付きで非常に具体的でわかりやすく説明されていた。
- ・写真や動画が多く、とてもわかりやすかった。教育委員会内で自分達が研修する際にも使いやすく、校内で看護師だけでなく教員が研修するのにもわかりやすいと思う。
- ・医療的ケア技術演習を実際に拝見して、わかりやすさを感じたので、看護師研修での演習の大事さを改めて感じた。
- ・講義全体がたいへん分かりやすかった。

【動画の研修の効果を実感した】

- ・動画を用いた研修は、大変効果的だと改めて思った。
- ・内容も具体的でさらに、動画によりわかりやすかった。
- ・やはり動画は分かりやすいと感じた。研修にも取り入れたいと思った。
- ・実際に動画を見ることは、とてもわかりやすく参考になる。
- ・実際の児童生徒での実技動画などは、大変有意義であると同時に、保護者の理解や協力なしにはできないものだと感じた。
- ・医療的ケアを行う中で遭遇する不安項目を取りあげ、動画による研修はわかりやすかった。
- ・専門的な内容や対応方法など、県教育委員会の担当としては難しい内容であったが、動画で視聴できる仕組みは学校看護師にとって一助となることを実感した。

【オンライン研修の参考になった】

- ・オンラインでできる素晴らしい資料だと感じた。
- ・オンラインでの演習については、困難さを感じていたが、実施方法の様子を見させていただき参考になった。
- ・来年度学校看護師のオンラインによる実技研修について検討していたので参考にしたい。

【このような研修教材を作成してほしい】

- ・動画を活用したオンデマンド研修で必要な知識を学んだうえで、主治医から指導を受けられることができれば、より安心・安全に医療的ケアを実施していくために効果があると感じた。一方で、予算がない中で、動画自体がない実情があり、実技についての共通事項に関しては、研修に活用できるものが専門家監修で作成・配付いただけると、研修に取り入れやすいと思われる。
- ・見せていただいたような動画コンテンツがあれば良いと思う。

【医師の協力が必要である】

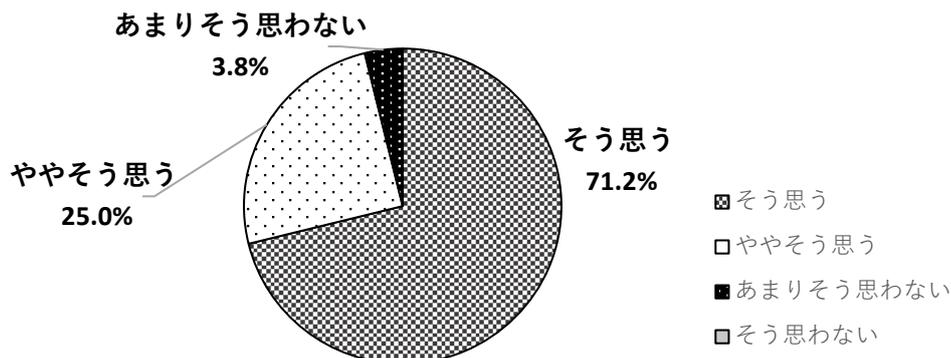
- ・医師の協力はかなり必要であると感じた。

⑥ グループワークの内容を今後の看護職員研修に活かしたいと思うか

そう思う 71.2% (37 人)、ややそう思う 25.0% (13 人)、あまりそう思わない 3.8% (2 人) であった。

図表 4-3-13

グループワークの内容を今後の看護職員研修に活かしたいと思うか (問 3) (n=52)



上記選択理由・感想 (自由記載) 40 件の回答

※ () 内の数字は同意見の回答数

【他自治体との情報共有が参考になった】

- ・他県の実情や取組方法などを直接聞くことができ、今後研修を企画していくうえで、大変参考になった。(7)
- ・他の自治体と情報共有できたことはよかった。(3)
- ・各県の取組から解決のヒント、今後やるべきことなどを得ることができた。(2)
- ・各自自治体での取り組み、課題意識を興味深く共有できた。(2)
- ・指導的な立場の看護師の配置をされている県や来年度からの配置を検討されている県のお話は参考になった。
- ・他県の良い取組を知ることができ、今後の研修に取り入れたいと感じた。
- ・自治体の人口や地域の規模によって違いがあるが、自分の県で実施可能なのかを考え、検討していくための情報収集できる機会として有効だった。(2)
- ・グループワークで共有した内容について、今後本県でも検討をしていきたい。
- ・他県の状況がわかるとともに、課題解決の方法等を知ることができた。
- ・他の自治体の状況を知ることができたのは、大変有意義であった。
- ・自分の市では、これから整えていかなければならない状況なので、一から勉強させていただいた。
- ・研修内容はもとより、開催方法についても、自治体の規模によって様々であることがよくわかった。どちらにしろ、どの自治体もそれぞれ可能なやり方で研修を実施して

おり、看護協会、医師会、関係部局等と連携を図りながら行っているケースも多いことがわかった。

- ・それぞれの課題や対策を聞くことができ参考になった。
- ・他県も同じような課題があり、試行錯誤しながら取り組んでいるのがわかり、より一層の充実した看護師研修を企画する必要があると感じた。
- ・他の自治体の方から直接話が伺えて、参考になることがたくさんあった。同じような課題を抱えているのこともわかり、今後も、他の自治体の実践から学んでいければと考える。
- ・看護職員の研修はもちろん、看護師の配置や指導的立場の看護師等、参考になる話題ばかりだった。いろいろな研修方法をお聞きして、各自治体の実態の違いがあるのでそのまま使うことは難しいものもあると思うが、参考にしながら研修を企画していこうと思う。
- ・他県の状況を具体的に把握できる機会は貴重である。
- ・同じような立場にある方と交流を持つことができ、参考になった。
- ・本県では取り組んでいなかった初任者への研修なども、今後検討していきたい。
- ・初めてご勤務いただく看護師への研修について、少しの時間であってもお話する機会や学校現場の独特の文化等、お伝えすることは大事だと改めて感じた。大変参考になった。

【同じ立場の人と課題や悩みを共有できて有意義だった】

- ・同じ業務に取り組んでいる職員と話せるのはとてもよかった。当市の他の職員とは話が伝わらないところを悩みが共有できて有意義だった。
- ・他自治体の取組を伺うことで、同じような課題や悩みを共有できたことはよかった。
- ・同じような課題や悩みを抱えていることが分かった。

【グループ分けの課題】

- ・グループ分けはどのような基準があるのか知りたい。
- ・グループ内のほとんどが県教委だったため、政令市に関する情報共有ができなかった。
- ・グループの分け方について、政令市は政令市でまとめていただくとありがたい。政令市は特別支援学校だけでなく小中学校等も所管しているので、小中学校についてどのようにしているか等についても情報交換したい。
- ・今後は、自治体の実態に応じたグルーピング（看護師の任用状況や対象児童生徒数等によるもの、あるいは、学校看護師のニーズ）となるとより深まると感じた。

【オンラインのグループワークの課題】

- ・オンラインでも十分意義はあったが、直接対面しての協議に比べるとやや盛り上がり
に欠けるのかもしれない。進行役の方は大変だったのではないか。
- ・Zoomによるグループワークは始めてだったため難しかったが、やり取りによる協議
の活発化が難しいため、進行者の質問の仕方や進行が大きく影響すると感じた。しか
し、必ず参加者が話す機会を持てるという点はよかったと感じる。
- ・グループワークでは各都道府県の課題を共有したが研修会に活かすところまでは話せ
なかった。

【その他】

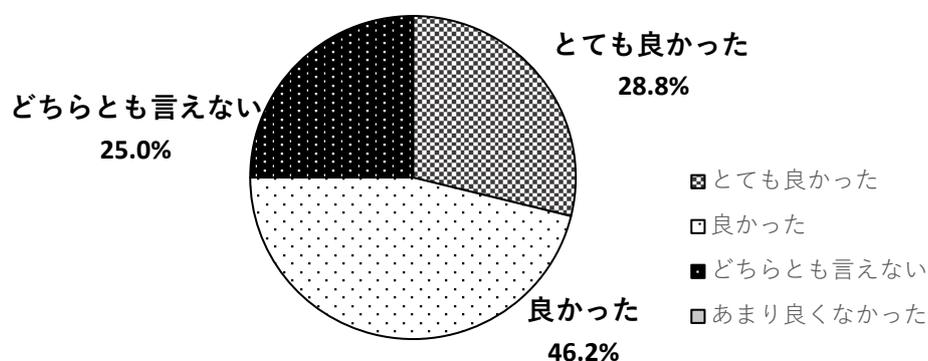
- ・指導的立場となる看護師の配置について、本県も検討しているが人材のことや配置に
向けて、どのような進め方を行ったらよいか既に取り組まれている自治体に相談し
ていきたいと思う。
- ・看護師の十分な人数確保ができていたのがあったので、どのようにされているのか聞
きたかった。
- ・講師依頼に苦慮するので、研修内容に応じた講師の探し方について情報交換ができ
るとよい。
- ・司会の方がうまく協議を回してくれた。
- ・オンラインによる看護師研修についても、今後可能性を見いだしていく必要性を感じ
た。

(5) 今回の Web 配信という形態の研修は集合の研修と比べてどう思ったか

とても良かった 28.8% (15 人)、良かった 46.2% (24 人)、どちらとも言えない 25.0% (13 人) であった。

図表 4-3-14

Web 配信という形態の研修は集合の研修と比べてどう思ったか (問 3) (n=52)



上記選択理由 (自由記載) 48 件の回答 ※ () 内の数字は同意見の回答数

【オンライン研修でも集合研修と遜色なく有意義だった】

- ・ 講義形式の研修はオンラインで十分補えると思った。(4)
- ・ 1日この業務のことだけに向かい合い思考することができ、とても有意義だった。対面で話したい気もしたが、今回の研修の形式はよかったと思う。自身のオンラインの研修の経験値も上がった気がする。
- ・ 集合研修が一番良いが、それでも現状の中で十分満足できる研修だった。
- ・ 演習や実技を伴う内容でなければ、集合型と同様の成果が得られると感じた。
- ・ 講義については集合研修とさほど問題なく受講することができた。
- ・ 集合の研修より集中できたような気がする。
- ・ 講義形式としての Web 研修はよい。
- ・ システムトラブルもなく、集合研修と遜色ない成果を得られた。
- ・ 1日の Web 研修は初めてだったが、休憩時間等の配慮で集中して参加することができた。
- ・ Web 配信により、研修の内容を複数名で共有することができ、今後の業務を進める上で参考になった。

【オンラインでもグループワークで有意義な意見交換ができた】

- ・ グループワークについて、もっとやりとり場面で不具合が生じると心配していたが、予想以上にスムーズに実施することができた。(2)
- ・ グループワークでは、オンライン上で顔を見ながら協議でき、有意義な意見交換ができた。
- ・ グループワークについて参考になる話を聞くことができた。オンラインでの話し手に集中しやすいというメリットを感じることもできた。

【Web 研修の今後の可能性を感じた】

- ・ 直接顔を合わせる会議や研修以外の可能性を感じた。
- ・ 機器や通信等のトラブルが懸念されることもあるが、講義中心の研修であれば、十分満足できるものであり、今後の可能性にも期待できる。
- ・ こういった形態の研修も今後必要性に応じて取り入れていきたい。
- ・ 今後の活用の大きな発展の可能性を感じるものとなった。

【移動時間を節約できて効率的だった】

- ・ 移動にかかる時間だけでなく、旅費の削減にもつながった。(4)
- ・ 移動時間等が削減できるので、ありがたい。スライド等もよく見えた。(2)
- ・ 出張することなく、最新の情報や参考例を聞くことができ、大変有効だと感じた。(2)
- ・ 効率的だった。
- ・ 地方から参加しやすく有難い。

- ・議会对応や他の業務が立て込んでいるときに、隣の部屋に移動するだけでこれだけ充実した研修を受講することができた。
- ・時間を有意義に活用できた。
- ・本市から東京はアクセスが良く、移動時間はそれほど課題にはならないが、他の自治体はそうではなく、全国の方と低コストで協議や情報共有ができることは、非常に効率的であったと思う。

【オンラインのグループワーク・受講者間交流の課題を感じた】

- ・グループワークは実際に対面でやり取りする方がより協議を深められるような気がする。(8)
- ・不慣れなせいもあり、グループ協議では活発な意見交換ができなかった。(3)
- ・協議については、やはり集合形式と違い、やりとり1つ1つに時間のタイムラグがあるため、集合形式での時間よりもう少し長めに設定していただければ嬉しかった。内容を深められたという手ごたえを感じにくかった。(2)
- ・グループワークについては、リモートに慣れてくると活発に意見交換ができるのかもしれないが、やはり従来の集合研修の方がやりやすいと思う。集合研修であれば、休憩時間に隣の自治体の方と雑談したり、そこからつながりができてその後情報交換したりといったことがあるが、Web形式だとなかなかそうはなりづらいと感じた。(2)
- ・名刺交換など行えず、残念だった。
- ・グループワークは参加者がオンライン研修に慣れることで解決できるかもしれないが、進行の際は、意見を求める難しさがあったのではないかと感じた。
- ・グループ内の方との交流はできたが、グループ外の方と積極的な交流ができなかった。
- ・情報交換や協議では、会議の雰囲気が分かりづらいこともあり、発言のタイミングが取りづらい。
- ・今回は新型コロナ対策のためやむを得ないが、昨年度のような集合研修の方が他の自治体に質問しやすかった。

【できるだけ集合研修を希望する】

- ・コロナ禍のため仕方がないと思うが、集合研修が可能な状況になった際は、集合研修での実施を検討してほしい。

【オンライン研修と集合研修それぞれの利点と欠点を感じた】

- ・これまでの集合研修と違い、職場から全国の情報を得られた本研修会は、移動の必要がないなど業務上のメリットが大きい。また、協議についても、慣れが必要とは思いますが、問題なく活発な協議ができた。研修直後に、他県の状況を課内で情報共有し意見交換ができるなど、遠隔によるメリットを感じた。一方で、実技や例えば機器の実物を見るなど、直接の方がわかりやすい内容もあると思われることから、どのように組み合わせしていくのが重要だと感じた。

- ・オンラインの良さと集合研修の良さがあると感じた。
- ・集合研修に割かれる時間等の面でメリットがあり、協議も十分にできたので良かったと思う。しかし集合研修の良さも感じる。受講者の反応等を見ながら、集合研修では余談等も含め話し、その中に大事なワードであったりすることもあるので、そのあたりが配信になるとほとんどなくなっているように感じたので、そこは残念に思う。
- ・それぞれの良さがあり、どのような形態が良いかは、研修内容によると思う。今回の研修においては、Web研修で良かったと思う。
- ・どちらの形態でも、研修の内容そのものは学ぶことができた。グループワークがあり、意見交換ができてよかったが、研修の合間に情報交換することも価値のあるものだったので、それぞれの良さもある一方、カバーできないこともあると感じた。
- ・講義部分はWeb開催で一切問題ないと感じた。質疑応答もメール等で文字化された方が、間違いなく互いの意図が確認できると思う。情報交換や協議については、グループ編成を協議内容によって変えることでより有効な場合もあると思う。Web上でも可能だが、協議部分だけは集合で行ってみるなど検証した上で比較検討してみてもいいのかと感じた。

【コロナ禍でも受講できた】

- ・コロナ禍でのWeb研修だったが、どこに居ても研修に参加できたことは良かった。(2)
- ・コロナ禍でも、このような会でいろいろな情報を得ることができることは、各県・市が思いをより一層ポジティブにもっていけると思う。
- ・コロナ禍において、Webでの利点を生かした研修形態であったと思う。
- ・中止せずに実施できるメリットは大きい。
- ・集合だと講義前後でもほかの自治体の先生方と情報交換できるので、全国各地へのネットワークが広がることは大きいと思うが、このような状況でオンラインで開催いただいたことは大変ありがたい。

【疲労感があった】

- ・研修に要する時間によっては疲労感が大きいと感じた。

【ネット環境による不具合があった】

- ・こちらの通信環境が悪く、参加者とスムーズに会話ができず残念だった。
- ・ネット環境により電波が不安定になることがあり、大切な講義を十分聴けないことがあった。

【研修終了後のフォローアップについての要望】

- ・協議会終了後も一定期間動画等がアップされていると、さらに良いと思う。

(6) 本研修の開催方法（時期、対象、目的等）、全体を通じた感想・意見

（自由記載） 38 件の回答

【内容良かった・有意義だった】

- ・楽しみにしていた研修。予想通りの良さだった。
- ・大変充実した研修だった。
- ・非常に有意義な研修会であったと感じる。
- ・貴重な研修の機会をいただいた。
- ・看護師研修というところに焦点を当てられたところが非常に良かった。
- ・開催方法や内容が良かった。
- ・いろいろな立場の講義を聞くことができ大変有意義であった。
- ・Web での開催だったが有意義な研修だった。常勤看護師も一緒に参加したため、看護師が必要としている研修内容や実際の場面で感じていること、教員との協働での難しさ等を研修内容と絡めながら情報共有できたので、大変有意義だった。
- ・テーマが明確で、非常に充実したものとなりました。
- ・新しい情報や、他県の状況など知る機会となり、刺激を受けている。オンライン研修での実施がよい。

【参考になった・イメージが広がった】

- ・研修の立案に悩むことが多かったが、この研修で少しイメージを広げることができた。
- ・学ぶべきことが多かった。
- ・医療的ケアの担当者は、どの県も手探りでやっていると思うので、このような研修が貴重な情報収集の場となっている。
- ・私自身が担当 1 年目であったため、年間の流れが掴みはじめたタイミングであったため、全体像として捉えることが出来た。
- ・実際にどうしたら良いのかわからないまま進めている部分もあるので、今回の研修を参考に、模索しながらではあるが、一つずつ進めていきたいと思った。
- ・まだまだ知らないことがたくさんあり、参加させていただけたことに感謝している。
- ・看護師研修充実のため、大変参考になった。

【オンライン研修の参考になった】

- ・本県でもオンライン研修を取り入れていくにあたり、今回の研修内容と運営方法は、大変参考となった。
- ・コロナ禍の中での研修の在り方として、参考にさせていただく部分がたくさんあった。
- ・オンライン研修の見本を示していただいた。

【コロナ禍でも受講できて良かった】

- ・コロナ禍で研修等の開催が難しい中、このような素晴らしい研修を開催していただきありがとうございました。
- ・集合形式の研修が難しい状況の中で、オンラインでも開催していただき大変感謝している。
- ・今回は、コロナ禍ということで、いろいろと手配をしていただいたことに感謝している。

【グループワークができて良かった】

- ・オンラインで協議もできてよかったです。従来の集合型会議の良い点として、他の自治体との交流やつながりができる事ですが、オンラインでも一定の情報交換ができた。
- ・今回のように、行政としてどのようにしていくのか、対象者が同じだったことで他の参加者と課題意識が近く、大変多くのことが学べた。

【開催時期が良かった】

- ・次年度以降に生かしていく意味では、良い時期であり、内容も充実していた。
- ・開催時期としては9月以降であれば、新担当者であっても、理解が深まると考える。次年度の研修計画に取り入れていきたい。
- ・開催時期、対象、目的共に良い。
- ・各自治体の研修会の実施時期等を鑑みると、適切だったと思う。

【開催時期への要望】

- ・特に異論はないが、強いて申し上げると、この時期は県議会開催中であり、執務室を丸1日離れて参加することで、他の課員に負担が生じた部分があった。
- ・12月だと来年度新設する研修等には間に合わないため、もう少し早い時期の開催だと大変助かる。
- ・開催時期はもう少し早くても良かった。この研修を基に、年度内に看護師研修が開催できるよう、準備していきたい。
- ・12月に実施するなら、前半は議会対応があるので、後半だと助かる。
- ・夏休みに伝達講習できる内容であれば6月頃に開催していただけると良いと思う。
- ・時期的なものだと、8月や10月の方がよいと感じた（12月は、本市において、様々な会議が続くため）。
- ・研修時期については、できるだけ年度の早い時期のほうがありがたい。
- ・時期としては、可能であればもっと早い段階での開催だと、その年度に生かしていくことができると感じた。

【資料を活用できる】

- ・1月に看護師の研修を開催する予定。資料等活用させていただきたいと思う。
- ・本県においても「学校における医療的ケア実施対応マニュアル」の周知を今後行っていきたいと思う。

【準備・企画が良かった】

- ・事前のご連絡やマニュアルの郵送など様々なご配慮で快適に受講できた。
- ・事務局として、相当な準備やリハーサルを経て、今回の研修を実施していただいていることを随所と感じた。
- ・研修の準備から運営まで、大変ご苦労様でした。

【負担が少なかった】

- ・県外だと行き帰りで疲れてしまうが、今回のような開催方法は移動の負担がなくて助かった。その分、集中できた。

【看護職員も参加できたらよかった】

- ・視聴のみの参加等があると一部の看護師に案内できたと思う。

【今後の研修への要望】

- ・次年度に向けて計画に反映できる時期であり、年1回この時期に継続開催してくれるとありがたい。
- ・内容はとてもよかった。他県での看護師の雇用方法や看護師を見つけるための工夫等を知りたい。
- ・過去に参加された方から、集合研修に参加することで他県の担当者につながることができ、その後役立ったということを知っている。もちろん今回の同じグループの方々とは、そのようなつながりができるとは思うが、講義間にも情報交換ができるのではと思う。実際可能な状況の際は集合研修での実施を検討していただきたい。
- ・Web研修と集合研修の合わせた形での研修がよい。
- ・できれば、今回の参加者名簿を共有していただくと、今後も連携ができてよいと思う。

(7) その他学校に勤務する看護職員研修に関する国への要望（自由記載）

28件の回答

※（ ）内の数字は同意見の回答数

【オンライン研修の継続開催】

- ・今後もこのような研修を継続してほしい。
- ・WebやDVD等での研修を増やしていただけるとありがたい。

【動画教材の作成・提供】

- ・本日の先生の講義のようなもの、研修動画コンテンツとして視聴できれば、学校看護師にとって参考になり、各学校での研修にも活かせると思った。(2)
- ・研修で使えるマニュアルや動画配信を整備して欲しい。
- ・医療的ケアに関わる最新の情報を、動画で看護師の研修としていつでもどこでも見られるような配信の方法でお願いしたい。

- ・今回先生が動画を用いながら講義をしてくださり、経験が少ない看護師にも非常に役立つものだった。学校看護師が繰り返し見ることができるようなものを提供していただけると助かる。

【看護職員に対する研修開催】

- ・文科省主催、オンライン開催による学校看護師への共通研修開催を希望。(3)
- ・学校看護師に特化した実技を含む研修を主催してほしい。
- ・指導的な立場の看護師を対象とした研修会を開いてほしい。
- ・前年度はあったが、国が看護師を対象とする研修も実施してほしい。
- ・看護師の採用数が少ない自治体もあると思うので、できれば、県単位での研修を計画してもらえるとありがたい。

【情報発信・提供】

- ・訪問看護師との連携例等、様々な具体例を今後も情報提供してほしい。
- ・国から、医師会や看護協会に看護師研修協力の依頼をしてもらえると自治体は大変ありがたい。
- ・今後も、研修の実践事例について、情報提供してくれるとありがたい。
- ・今後も、各地での取り組みの集約及び共有をお願いできたら幸いである。

【看護職員の雇用促進・予算面の支援】

- ・研修と少し異なるが、働く前の段階として、学校で働く看護職員がいること、教育に携わる働き方があることを、周知する取り組みをしてほしい。全国的な周知が、離職離れや雇用増進につながるのではないかと思う。
- ・研修についてはないが、看護師の雇用には予算が必要である。自治体としても取り組んでいるが、医療的ケアの必要な子供たちのために文部科学省としても予算確保についてお願いしたい。
- ・本県は、自立活動を担当する教諭での採用であるため、教員定数内での配置である。看護職員の定数化を求める。
- ・本県は離島もあり、1回の集合研修を行う予算を確保するのも厳しい現状がある。研修の充実を図るためにも予算面での補助について検討してほしい。
- ・今年度は補助率が減り、県での負担が大きくなり、財政当局との協議をしているが、難航している。医療的ケアが必要な児童生徒は毎年増加しており、それに伴い、必要な看護師数も増加している。また、歩行のできる医療的ケア児や人工呼吸器装着の児童生徒等児童生徒の実態は多様であり、どの特別支援学校にも看護師の配置が必要な状況となっている。医療的ケアが必要な児童生徒が安全に学校生活を送るためにも、看護師配置についての補助金が減額されないようお願いしたい。
- ・切れ目ない支援体制構築事業の補助金はできるだけ継続してほしい。

【学校における医療的ケアの範囲の整理】

- ・やはり、医ケアは児童生徒によつての個別性が高いとはいえ、学校でできることとできないことの整理をしてほしい。

第4節 企画研修実施後の検証

本事業では、有識者会議及びワーキング会議の検討を経て、学校に勤務する看護職員が提供する医療的ケアの質の確保及び均てん化を目指し、看護職員研修担当者及び指導的立場にある看護師を対象とした「企画研修」を開発、開催した。この企画研修の開催について検証した結果の考察および今後の方向性を以下に述べる。

1. ねらい

本企画研修のねらいは「教育委員会の看護職員研修担当者・指導的立場にある看護師が、看護職員に対して研修会を実施する手法を強化する」、「教育委員会の看護職員研修担当者が、研修開催に関する各地域の課題を共有し検討することで解決策を見出す」であった。

これに対し、企画研修アンケート調査の結果では、学校に勤務する看護職員研修を企画するにあたり参考になる内容だったかという質問に対し、「そう思う」が88.7%、「ややそう思う」が11.3%であり、合計100%であったことや「グループワークで課題を共有できた」、「他の自治体の取組みを聞いて、自身の自治体の課題の解決策のヒントを得た」等の意見があったことから、本企画研修におけるねらいは達成できたと評価する。その上で、今後検討すべきねらいとしては、看護職員研修担当者への研修は、学校に勤務する看護職員の安心及び質の確保と均てん化を目指したものであることを踏まえることも必要と考える。また、企画研修参加者は、殆どが非医療職であったことから、医療的ケアの理解をねらいのひとつとすることも考えられる。

2. 受講対象者

本企画研修の受講対象者は、都道府県及び政令指定都市（67自治体）の看護職員研修を企画する担当者および指導的立場にある看護師とした。結果、このうち53自治体の53人が受講した。

本企画研修では、予算やWeb開催による参加可能数の上限等の制約も踏まえ、主に特別支援学校を中心とした看護職員研修担当者が対象となったが、市区町村の幼稚園、小中高等学校（以下「学校等」とする）に通う医療的ケア児が増えていることから、市区町村の担当者を含めることが必要との意見が本事業の委員からもあった。市区町村等の小中学校等に在籍する医療的ケア児は年々増加しており、特別支援学校ではない、学校等に在籍する医療的ケア児は令和元年度時点で1,453人である（「令和元年度学校における医療的ケアに関する実態調査」文部科学省より）。全ての市区町村の学校等に医療的ケア児が在籍しているわけではなく、ひとつの自治体における医療的ケア児の人数は様々であり、実際に数年に1度しか入学してこないところもある。医療的ケア児に関わる看護職員も、医療的ケア児の入学に合わせて採用されることがほとんどであると推測されるため、わずかな看護職員に対して手厚い研修を開催することは難しいと考えられる。今回、教育委

員会アンケート調査の結果では、管轄の市区町村では研修を企画開催していないという回答が最も多く 22.4%であり、市区町村が研修を企画開催しているという回答は 6.0%であった。自由回答でも、市区町村が独自で研修を開催することは予算的にも厳しいとの意見があった。

都道府県も市区町村もそれぞれ独立した行政であるものの、都道府県は市区町村を支援すべき立場であり、研修開催についても、まずは都道府県が支援する必要があることから、本企画研修は都道府県および政令指定都市を対象にして、市区町村への支援に関する講義内容を含めることで、例えば同様の研修を都道府県が市区町村に対して開催する等により、各自治体における支援の取組みの活性化につなげることができると考える。

しかし、医療的ケア児が多数在籍し、学校に勤務する看護職員も充実しているような市区町村においては、本企画研修の内容は大変有用であると考え。そのため、受講を希望する市区町村については、参加の門を広げることも必要と考える。集合研修であれば参加人数に限りがあるが、オンラインによる開催であれば設定により受講者人数を増やすことも可能であり、柔軟な対応ができることも利点であると考え。

3. 開催時期

本企画研修は、令和 2 年 12 月 4 日（金）に開催した。

企画研修アンケート調査の結果では、自治体によりこの 12 月上旬の開催では、次年度の研修計画や予算立てに間に合わないという意見があった。今後の各自治体における研修開催に活かされるものであるべきことから、各年度の中で、翌年度の研修企画や予算確保に間に合い、且つ参加しやすいと考えられる夏季休業の時期から 2 学期の前期にかけての時期の開催が適当と考えられる。

4. 研修開催方法

本企画研修の開催方法は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から「Zoom ミーティング」による Web ライブ配信の研修となった。トラブル回避のため、講義は事前収録した映像を配信し、アナウンスとグループワーク等はライブ配信とした。また、受講者に対して事前にテスト配信を行い、ネットワーク環境の確認やグループワーク参加方法の確認、注意事項等を伝えた。講師も初めてブレイクアウトセッション機能を利用する人が大半であったため、リハーサルを実施して当日を迎えた。結果、トラブルなく開催することができた。企画研修アンケート調査の結果では、Web 配信について「とても良かった」が 28.8%、「良かった」が 46.2%、「どちらとも言えない」が 25.0%であった。自由回答では、特に講義についてはオンラインで十分だったという意見が多数みられた。他にも、移動時間や交通費等の費用がかからず効率的だったという肯定的な意見が

多数みられた。一方、グループワークについては、予想以上に充実していたという意見もある中で、オンラインの難しさを感じる意見も多数みられた。

今後、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた生活様式の変化に伴い、これまで対面で実施することが多かった研修や会議等は、必ずしも対面に限定されない方法で実施されることが増加していくことが推測される。このような状況を踏まえ、学校の看護職員を対象にした研修においても、今後は、対面によらない形態でも実施可能な研修の内容であれば、その実施に向けて、実施可能な範囲や対面での研修と同等以上の学習効果を担保できる実施方法等を検討していく必要があると考える。企画研修アンケート調査の結果では、Web研修という形の開催が良かったかどうかという項目に対して「どちらともいえない」と回答した者が25%であった。自由回答でも集合研修を希望するという意見があり、特にグループワークについては集合で実施したいという意見が複数あった。この意見の背景として、Webによる会議や研修が主流となって1年弱であるため、不慣れな人が多かったことがひとつであると考えられる。しかし、このWebという研修開催方法は、新型コロナウイルス感染症の蔓延をきっかけとした新しい生活様式として、今後も続ける必要があり、そして、いずれ定着していくべきものと考えられる。例えば現在も、様々なWebの相互交流ツールが開発されており、リアルタイムのWebアンケート調査やチャット機能等によるディスカッションも可能となっている。グループワークのような協議の場がより活性化し、有益なものにできるよう、従来の集合型研修の方法に倣うのではなく、新たな方法等を取り入れていく視点が必要と考える。今後は、講義や協議といった内容や目的、受講者の希望等を勘案してツールを有効活用することが望ましいと考える。

5. 講義資料

本企画研修の資料は、令和元年度文部科学省委託事業にて公益財団法人日本訪問看護財団が作成した「学校における医療的ケア実施対応マニュアル（看護師用）」（1冊送付）および各講師の講義資料（ダウンロード）を使用した。

企画研修アンケート調査の結果では、「学校における医療的ケア実施対応マニュアル（看護師用）」を活用した講義が参考になったという意見が複数みられた。

看護師用マニュアルは、学校現場の看護職員のマニュアルとしてだけでなく、看護職員研修でも活用することができるものと考えられる。

6. 講義

1) 学校における医療的ケアの現状と課題」（行政説明）

企画研修アンケート調査の結果では、自由回答で、はじめに現状を丁寧に説明したことで研修を受ける目的が明確になったという意見があった。

研修冒頭において、行政説明として医療的ケア児を取り巻く全体像の説明等があることで、研修全体の総論から各論への流れを作るものとなり、必要不可欠であると考え。自治体で研修を開催する場合は、国や各自治体の施策の方向性に加え、各自治体の現状と課題についての講義とすることで、より受講者の理解が深まると考える。

2) 「教育委員会が企画する看護職員研修について」(講義)

企画研修アンケート調査の結果では、今後看護職員研修に活かしたいと思うかという質問に対し、「そう思う」が86.5%、「ややそう思う」が13.5%と、合計100%であった。自由回答の感想として、本企画研修の始まりに本研修の目的や意義が示されたことや具体的取り組みが参考になったという意見、看護職員の研修開催の重要性を理解した等の意見が多数みられた。

講義の最初という位置づけとして、企画研修の概要と目的の説明、基礎となる研修企画の流れなどが紹介され、この後に続く各論の講義に向けての総論として、そして研修を受講する動機付けが明確になるものとして、構成および内容は適切であり、必要不可欠であったと考える。

3) 「『学校における医療的ケア実施対応マニュアル(看護師用)』の活用」(資料の説明)

「学校における医療的ケア実施対応マニュアル(看護師用)」について、この後の講義で使用する資料として、内容の詳細や活用方法の説明等を行った。

これから展開される各論の前に当資料を紹介することで、受講者が以降の講義を理解しやすくなったため、構成、内容ともに適切であったと考える。

4) 「学校における看護職員とは」(講義)

企画研修アンケート調査の結果では、今後の看護職員研修に活かしたいと思うかという質問に対し、「そう思う」が58.5%、「ややそう思う」が39.6%であった。自由回答でも、看護職員の役割を理解できた、看護職員の戸惑いや悩みを理解したという意見が多数みられた。

本企画研修の参加者のほとんどが非医療職の看護職員研修担当者であったこともあり、本講義は看護職員研修担当者が看護職員を理解するために、大変重要なものであったと考えられる。また、看護職員アンケート調査の結果や看護職員ヒアリング調査の結果でも、「教育委員会や教員に看護師とはどういうものか知って欲しい」という意見がみられた。今回の事業では、予算や時間の制約上、研修の企画に反映させるためのアンケートを実施できなかったが、今後、各自治体で研修を開催する際は、事前に看護職員の研修ニーズを調査し、研修内容に反映させることもひとつの方法として考えられる。

5) 「有意義な研修開催のための提案① 学校における医療的ケアに関する教育的な意義・校内体制の整備について」(講義)

企画研修アンケート調査の結果では、今後の看護職員研修に活かしたいと思うかという質問に対し、「そう思う」が80.8%、「ややそう思う」が19.2%であった。自由回答でも、看護職員との協働の重要性を理解した、「看護職員が指導目標達成のためにいる」という言葉に共感した、医療的ケアをする看護職員の教育的意義を理解した等の意見が多数みられた。

学校現場で課題となっている看護職員と教員との連携や相互理解の必要性、看護職員の位置づけ等の理解につながったと考える。看護職員への研修開催の動機付けにもなったと考えられる。また、教育委員会アンケート調査の結果では、自治体により看護職員の常勤・非常勤雇用等の雇用形態が様々であることも明らかになっている。看護職員の雇用形態や勤務体制により、課せられる業務の範囲も異なることが考えられ、これにより多職種連携における看護職員の役割や形態についても、自治体により様々であることが考えられる。それらの背景を踏まえた講義内容を検討することも必要と考える。また、同様の内容の研修を各自治体で開催する場合は、その自治体の雇用形態や指示命令系統の仕組みが理解できるような内容も伝える必要があると考える。

6) 「有意義な研修開催のための提案② 指導的立場にある看護師の役割とその育成・看護職員の経験等に応じた研修ニーズの把握と対応」(講義)

企画研修アンケート調査の結果では、今後の看護職員研修に活かしたいと思うかという質問に対し、「そう思う」が67.3%、「ややそう思う」が30.8%であった。自由回答でも、指導的立場にある看護師の役割・重要性を理解した、指導的立場にある看護師の配置に向けて参考になった、研修開催の取組みが参考になった等の意見があった。

本講義による指導的立場にある看護師の役割や重要性の理解は、現在求められている指導的立場にある看護師の配置の促進の一助になったと考える。また、研修開催の具体的な取組みを示すことで、各自治体が開催する看護職員研修のモデルのひとつになったと考える。また、今後、このような講義内容は、指導的立場にある看護師を育成するための研修にも活用できると考える。

7) 「有意義な研修開催のための提案③ オンラインによる医療的ケア技術演習のデモ講義・高度な医療技術に関する研修実施の意義 等」(講義)

企画研修アンケート調査の結果では、今後の看護職員研修に活かしたいと思うかという質問に対し、「そう思う」が71.2%、「ややそう思う」が26.9%であった。自由回答でも、医療的ケアの研修開催に活かしたい、オンラインでの実技演習の参考になった、研修開催者として、医療的ケアのイメージがついた等の意見があった。

研修における実技演習や実習は、現時点では、対面によらない形態での実施では十分な

代替にはなりえないが、実技演習の事前学習等、目的を限定するのであれば、実技演習の一部を対面によらない形態で実施することができる可能性を示すことができたと考える。

また、本企画研修の受講者の殆どが非医療職であったが、これに加え受講者のうち45%が医療的ケア児に関わった経験が1年未満であった。この結果から、看護職員研修担当者が、必ずしも医療的ケア児に関わった経験があるとは限らないことが考えられる。このことから、看護職員研修担当者への研修では、今回開催したような医療的ケアに関する内容の講義も必要と考える。

8) 今後加えた方がよいと考えられる講義内容

企画研修アンケート調査の結果では、今後企画研修に加えた方がよいと思う内容として自由記載にて28人より回答を得た。その主なものとして、各自治体の看護職員研修への具体的取組みの紹介、看護職員の採用や配置のプロセスやその好事例の紹介等があった。

これに加え、先述の通り看護職員研修担当者が医療的ケアの経験があるとは限らないことから、医療や看護の基本の理解についての内容も必要と考える。また、学校における医療的ケアを取り巻く多職種連携は常に課題となっていることから、スムーズな連携の一助となるような、関係作りの基本から学ぶ機会等の提案をしていくことや、研修開催方法として、学校や医療機関に限らない民間を含めた講師を招く等の、枠にとらわれない柔軟な取組みを紹介すること等も有効と考える。

7. グループワーク

本企画研修のグループワークは、テーマを「看護職員を対象とした研修会開催に向けた課題の解決」として、受講者52人を8グループ(1グループ6~7人)に事前に振分けて実施した。なお、振分け条件は、事前アンケート調査にて、現在抱える課題がなるべく共通していること、医療的ケア及び現職の経験年数は様々とする、および都道府県と政令指定都市は混在させることとした。

企画研修アンケート調査の結果では、今後の看護職員研修に活かしたいと思うかという質問に対し、「そう思う」が71.2%、「ややそう思う」が25.0%であった。自由回答でも、他の自治体との情報共有が参考になった、同じ立場の人と課題や悩みを共有できて有意義だった等の意見が多数あった。グループ分けについては、都道府県と政令指定都市で分けて欲しかった、自治体の看護師任用状況や医療的ケア児の在籍数等でグループ分けした方が良かった等の意見があった。また、オンラインによるグループワーク自体に不慣れなことも影響し、時間が足りなかった等の意見もあった。

グループワークは、これまでに受講した内容を踏まえて自分の言葉で整理し議論する場であり、受け身だけではない研修になり、理解を深めるために大変有意義であり且つ必要なものであると考える。また、実際に非常に活発に意見交換がなされていた。お互いの自治体の状況等も共有することができ、これも受講者にとっては大変参考になったこと

が企画研修アンケート調査の結果からもうかがえた。そのため、今回のような研修において、重要な意義を持つものであったと考える。今回のテーマは、講義を受講したことを受け、自身の課題の解決を目指すものであり、先述のグループワークの意義に沿ったものであったと言え、今後このような研修を開催する際には、今回のグループワークのような、講義と一連となるようなテーマを設定する必要があると考える。

オンラインによるグループワークは、受講者にとって対面よりやりにくさがつきまとったが、これは今後も必要とされるものであることから、慣れや手法の工夫により改善させ、引き続きこの方法に挑み続ける必要があると考える。

第5章 本事業における総括

第5章 本事業における総括

学校における医療的ケアの質の確保を図ることは、医療的ケア児の就学先である特別支援学校や小中学校等での安心、安全な環境が必要となる。学校における医療的ケアの質を確保する上では、その中心的な担い手である、学校に勤務する看護職員の質の向上が欠かせない。看護職員の質の向上には、対面による研修や職場内での実務を通じた研修、自己学習等による自己研鑽など、多様な取組が必要であるが、本事業では、これらの内、対面による研修を企画する者に対して、研修を企画する際に必要な知識等を教授するためにはどのような研修内容が必要なのかを検討するために、教育委員会の看護職員研修担当者を対象とした「企画研修」を開発、開催した。

本企画研修は、看護職員研修担当者等に対する研修を開催することにより、看護職員に必要で効果的な研修を提供できるようになり、これにより、学校の看護師の資質の向上を図ることを最終的な目的としたものである。この視点から本事業を総括する。ここでは、学校に勤務する看護職員の質の向上を念頭に、本事業から見えた研修企画の可能性と検討すべき課題と、本事業において実施したアンケート調査及びヒアリング調査により得られた結果から見えた課題並びに今後の各自治体等が実施する地域での看護職員研修の在り方について提案する。

第1節 本事業からみえた課題と提案

1. 看護職員の研修ニーズの把握

教育委員会アンケート調査の結果では、看護職員の研修ニーズの把握方法については、「定期的なアンケート調査の実施」が46.4%、「学校長が把握したことを間接的に確認して把握」が31.0%であった。その他の自由回答としては、医療的ケアコーディネーターや養護教諭等が校内の意見を取りまとめた報告が多かった。

一方、看護職員アンケート調査の結果によると、教育委員会が看護職員の研修ニーズを把握しているかどうかという質問に対し、「あまり把握していない」、「全く把握していない」という回答が合わせて43.5%であった。受講したいと考える研修が開催されているかどうかという質問に対しては、「あまり開催されていない」、「開催されていない」という回答が合わせて43.3%であった。

看護職員ヒアリング調査の結果では、教育委員会が看護職員の研修ニーズを把握しているか否かは、希望する研修が開催されているかどうかを基準に判断するというコメントがあった。自分が受講したいと考える研修が開催されていないと回答した者が約4割であったという結果は、研修企画者が看護職員の研修ニーズを把握していなかったり、把握

している場合であってもニーズが研修に十分に反映されていなかったりすることを示していると考えられる。

一方、本企画研修の受講者は、その殆どが教員（非医療職）であり、さらに本企画研修の受講者の中では、医療的ケア児に関わった経験が1年未満の受講者が約半数を占めていた。学校において医療的ケアを提供する看護職員の研修を企画する立場である看護職員研修担当者自身が、医療的ケアに関する知識や経験が少ない状況であった。この結果はあくまでも本企画研修受講者のみのことであるが、全国的に同様の傾向にある可能性もある。もしこのような場合、看護職員研修受講対象者からの研修への要望は、受講者の質の向上を図る研修を企画する上で非常に重要な要素になると考える。

一方、教育委員会及び看護職員ヒアリング調査の結果では、教育委員会配置の指導的立場にある看護師が、学校に勤務する看護職員に直接ヒアリング調査を行い企画に反映させているという事例があった。また、教育委員会に配置されていないものの、経験が長く指導的立場にある看護師として活躍している看護職員が、教育委員会と共に研修を企画しているという事例もあった。このような形で、指導的立場にある看護師が関わり、看護職員の研修ニーズを反映することも試みられている。

教育委員会アンケート調査の結果で、研修開催に関する課題は「看護職員により経験の差が大きい」が50.7%と最も多かった。つまり、現場では看護職員の経験の差から、様々な研修ニーズがあることが推測される。この点は、研修企画者が看護職員の研修ニーズを踏まえることの重要性を示しているものである。

研修ニーズの把握が十分に行われていない現状や研修企画者の多くが医療的ケアについて十分な知識がない場合があるという状況を踏まえると、学校に勤務する看護職員の質の向上を目指す研修を企画する上で、看護職員の研修ニーズを的確に把握することが、受講する看護職員、看護職員研修担当者双方において重要であると考えられる。研修ニーズを的確に把握する方法としては、例えば、研修を企画する前に、看護職員にアンケートやヒアリングをしたり、研修実施時にアンケートを実施することにより、次回以降の研修に反映させたりすることなどが考えられる。以下、具体的に考えられる把握方法を提案に示す。

（提案）

- ・看護職員へ定期的に研修ニーズを把握するためのアンケート調査を実施するとともに、可能な範囲でヒアリング調査を実施する。
- ・上記アンケートにおいて、看護職員の経験による研修ニーズの違いを把握するなど、多角的な分析を行う。
- ・研修の実施前後に、研修の効果の測定や見直しの観点から、アンケート調査やヒアリング調査を実施し、その結果を踏まえ研修の効果等を評価する。評価の結果や研修ニーズ等を踏まえ、次回以降の研修の企画に反映させる（PDCAサイクル）。

2. 研修企画者に求められる視点

1) 医療的ケアの理解

学校における医療的ケアの質を確保するためには、学校に勤務する看護職員に対し、常に進歩する医療の情報提供を含めた高度で専門的な内容の研修を提供することが求められる。学校における医療的ケアを総括的に管理する立場の教育委員会には、そうした研修機会を用意することが求められる。

地方公務員は定期的な人事異動があることが多いが、教育委員会の看護職員研修担当者も数年ごとの異動で変わることが、今回の各種調査でも確認された。定期的な人事異動は看護職員研修担当者に特有のことではなく、また、その制度そのものは利点も多くあるものであるが、一般的には、特定分野の知識や経験が蓄積されることが少ないと考えられる。今回企画研修を受講した看護職員研修担当者の場合も、医療的ケアに関する経験が様々であることが分かった。また、研修企画者は、看護職ではなく教員であることが多いが、一般に教員は、医療的ケアを含む医療に関することについて熟知していることは少なく、また、看護職員と協働した機会がある人は少ないと想定される。研修企画者の一部は、医療や看護職員に関する知識が十分でない状況の下で、看護職員への研修を企画している状況にあると言える。

しかし、教育委員会アンケート調査の結果によると、看護職員研修担当者が研修を企画する際の相談・調整の対象者は、「学校配置の看護職員」、「医療的ケア指導医」がどちらも44.8%で最も多く、次いで「学校に勤務する教員」が37.9%、「指導的立場にある看護師」が24.1%等であった。このように、看護職員研修担当者は、例え自身の経験が少ない場合であっても、専門職や実際に医療的ケアに携わる関係者と相談しながら看護職員研修を企画していることがうかがえる。しかし、地域資源として、研修企画の相談ができる人材が充実している自治体と少ない自治体があることが推測される。このような連携の方法や工夫について研修企画者が悩んだ時に、相談可能などころがあると、より充実した研修を企画することができるのではないかと推測される。

また、企画研修アンケート調査の結果では、医療的ケアに関する講義について、「自身の勉強になった」という意見が複数あった。こうした看護職員研修担当者の実情を考慮すると、本企画研修のように医療的ケアに関する内容が盛り込まれた、研修企画を支援するための研修を、継続して開催することが必要であると考えられる。

(提案)

- ・研修企画者を対象にした研修では、教育委員会の看護職員研修担当者が、学校における医療的ケア、看護職員について理解を促す内容を含むようにする。
- ・市区町村の研修企画者等からの相談窓口を、都道府県教育委員会や特別支援学校等に設置する。

2) 教員と看護職員の相互理解

看護職員アンケート調査の結果では、学校に着任した当初は、業務に関わる上での課題や困難について、「これまでとは異なる環境や手順での医療的ケアの実施」が84.5%で最も多く、次いで「学校組織や指揮命令系統などの仕組みの把握・理解」が80.1%であった。看護職員ヒアリング調査の結果では、学校という場所が今まで働いていた病院とあまりに異なることに驚き戸惑ったという意見が複数あった。

一方、教員も、看護職員の教育や病院勤務で培われた見方や、医療的ケアや医療的ケア児の症状に関する判断基準等に違和感を覚えることもあると予想される。これら教員と看護職員の考え方の違いやこれまでの職務内容等の違い等により、意思疎通の弊害になったり、意見の相違の遠因の1つになったりする可能性がある。しかし、医療的ケア児が学校で安全・安心な環境で学ぶためにも、教員と看護職員の連携は欠かせないものである。そのため、お互いを理解し合うための研修等の機会が必要と考える。

(提案)

- ・研修内容として、教員と看護職員の相互理解にかかる内容を組み込む。

(具体例：看護職員に対しては、学校教育の意義や目標等の講義、医療的ケア児への教育の事例等を、教員に対しては、看護職員の子供理解と医療的ケアや医療的ケア児の症状に関する判断基準に関する講義、医療的ケア児の理解とケアの実際の講義等を、教員、看護職員両者に対しては、教員と看護職員の相互理解のために実践されている具体的取組例や両者が参加したグループワークの実施等を研修に取り入れることなどが考えられる。)

3. 指導的立場にある看護師の位置付け

教育委員会アンケート調査の結果によると、看護職員研修担当者が研修を企画する際の相談・調整の対象者は、指導的立場にある看護師が最も少ないという結果であった。指導的立場にある看護師の配置状況をみると、「配置していない」という回答が64.2%であった。指導的立場にある看護師は、必ずしも、特定の名称を有していたり特定の役職を想定したりするものではなく、外部関係機関との連絡調整や看護師等の業務調整、看護師等の相談・指導・カンファレンスの開催、研修会の企画・運営等、医療的ケアに関する教職員からの相談対応などの業務を行っている看護師等のことであるが、今回の調査結果からは、単に指導的な立場にある看護師の配置が進んでいないだけでなく、必ずしも役職等を有している者を指すものではないという理解が十分に浸透していない可能性も考えられた。

今後、指導的立場にある看護師の位置づけを明確にしたり、それらの者を養成したりすることにより、リーダーとなる看護職員自らが研修ニーズの把握や研修企画をすることができことで、医療的ケアの質の確保のために大きな助けとなると考える。

指導的立場にある看護師の配置は、平成31年3月に文部科学省から発出された「学校における医療的ケアの今後の対応について」において、その必要性が示されたが、企画研修アンケート調査結果等から、今般、看護職員研修を企画する上でも重要なキーパーソンとなることが示唆された。配置が進まない要因は、指導的立場にある看護師の役割や配置効果が分かりにくいことが考えられる。本企画研修で取り上げたような指導的立場の看護師の実践事例を広く紹介する必要があると考える。

(提案)

- ・指導的立場にある看護師を養成するための研修を企画・開催する。
- ・指導的立場にある看護師（教育委員会、学校配置にかかわらず）が研修企画に関わる。

4. 講師となる人材及び研修に活用できる情報を確保する必要性

受講者への企画研修アンケート調査の結果では、看護職員研修開催に関する課題として、講師等の人材不足を課題とする回答が38人（71.7%）と、研修開催時間の確保に次いで多い結果であった。また、本企画研修で開催したグループワークでも、多くの自治体で講師となる人材が不足しているという指摘があった。本企画研修の講義では、医療機関や医療系教育機関（看護系大学等）や医療系団体（都道府県看護協会等）の協力を得てはどうかという解決策等が提示された。

また、本企画研修後に、一部自治体同士の情報交換や、講師への相談などから、講師が紹介されるケースもあった。企画研修アンケート調査の結果では、オンライン研修では十分な情報交換や交流が図れないとの意見もあったが、自治体同士がつながるきっかけを作る機会にもなっていたといえる。地域資源が不足している地域も存在するが、そのような地域でも、今回のような全国規模の研修により、他の地域からの支援を受けられるきっかけになり得る。また、オンラインという形態の研修であれば、遠方の講師に依頼することも容易になることを踏まえると、他の自治体での研修の実施状況や講師を依頼できる人材に関する情報は、今後その重要性を増していくものと考えられる。このような観点から、看護職員研修担当者を対象とした全国規模での研修は、看護職員研修担当者が講師となる人材を確保することを支援する上でも効果があることが示された。

(提案)

- ・学校の看護職員向けの研修に加え、看護職員研修担当者への研修の機会の確保やその重要性を関係者に周知するとともに、担当者間による情報共有の機会の確保を図る。
- ・学校の看護職員向けの研修やその企画担当者向けの研修では、その実施者が教材を準備することが負担になっている状況を踏まえ、看護職員研修で活用することができる講義コンテンツや資料等を、医療・看護関係団体の協力を得ながら充実させる。

5. 看護職員研修の質の確保及び均てん化

本企画研修では、「学校における医療的ケア実施対応マニュアル（看護師用）」を活用した。これは、学校に勤務する看護職員が医療的ケアを行う際のマニュアルとして直接活用できるばかりでなく、看護職員研修の資料としても活用できるものである。

本企画研修は、企画担当者に向けた研修内容であるが、その一部は、学校の看護師向けの研修にも活用できるものである。従って、研修の企画に困難を伴う場合は、本企画研修の内容を参考にしたり、同マニュアルを参考に教材を作成したりすることができると思われる。また、研修資料のひとつとして同マニュアルを活用することにより、全国的な看護職員研修の一定程度の均一な質の確保を図ることが期待できると考える。

（提案）

- ・ 研修教材の作成に困難を伴う場合には、「学校における医療的ケア実施対応マニュアル（看護師用）」等の既存の資料を看護職員研修の講義資料として積極的に活用することも検討する。

6. 都道府県による市区町村の看護職員研修開催の支援

人口や医療資源の状況により、市区町村立の小・中学校等に在籍する医療的ケア児の人数は様々である。多数在籍している市区町村もあれば、数年に1度しか入学しない市区町村もある。医療的ケア児が少ない市区町村では、学校等に看護職員を配置することも常時ではないため、研修を開催することが難しい状況である。仮に常時配置していたとしても、看護職員を1人しか配置していない場合等も想定され、このような場合も同様に難しさがあることが推測される。このため教育委員会アンケート調査の結果でも都道府県への支援を求める声があった。

一方、都道府県の市区町村に対する研修開催の支援状況については、「企画から開催まで全面的にサポートしている」のは5%以下であり、「市区町村は研修を企画開催していない」が22.4%、「市区町村から相談を受けたらサポートしている」が20.9%であった。その他の回答の中には、「市区町村の研修開催を把握していない」という回答も複数あった。教育委員会ヒアリング調査の結果でも、都道府県主催研修の紹介や、市区町村からの要望があった場合の支援をしているという意見があったが、主体的に支援しているという意見はなかった。

市区町村立の学校等に医療的ケア児が在籍していても、看護職員が1名から数名しか配置されていない場合等から研修開催が難しい市町村もある状況を考えると、都道府県教育委員会には、学校の看護師向けの研修を実施すべき立場の市町村教育委員会を支援することが期待される。都道府県教育委員会は、学校の看護師向けの研修に関して、市町村教育委員会を支援するにあたっては、効果的な支援のためにも、例えば、学校等における医療的ケア児の在籍状況や看護職員の研修ニーズについて、市町村を含めた把握し

たり、市区町村の看護職員も都道府県が主催する看護職員研修に参加できるようにしたりするなどの取組が考えられる。また、研修開催方法を Web 配信にすることで、場所や勤務状況等にとらわれず受講機会が得られることも、本企画研修から示唆される点である。

この他に、看護職員ヒアリング調査の中で、特別支援学校に勤務する看護職員として、近隣の学校等に勤務する看護職員の相談対応をしているとの意見があった。このような形で、教育委員会が直接支援することだけではなく、近隣の学校同士のつながりを構築することも、市町村への支援の方法として考えられる。

(提案)

- ・医療的ケア児や学校の看護師の状況により、市町村によっては、単独で学校の看護師向けの研修を開催することが困難であることもあるので、都道府県は市町村の意向も踏まえて、可能な限り、市町村の支援を検討する。
- ・都道府県開催の看護職員研修について、市町村の同意を得て、受講対象を市区町村にも拡大する。
- ・Web 配信研修を活用する。
- ・市区町村立の学校等からの相談窓口を、都道府県教育委員会や特別支援学校等に設置する。
- ・市区町村立の学校等と特別支援学校との地域ごとの交流会や勉強会を企画する。

第 2 節 研修モデル例

本事業で実施した質問紙調査とアリング調査の結果、及び、有識者による会議による議論等を踏まえて、研究企画者を対象にした研修モデル案を作成し、それを企画研修として実施した。企画研修の前後で、研修受講者を対象に質問紙調査を実施、その結果と有識者による会議による議論等を踏まえて、研修モデル案を再検討し、研修企画者のための研修に資する資料として、以下に 1. 看護職員研修担当者を対象とした研修モデル (例)、2. 看護職員研修担当者を対象とした研修企画に関するチェックリストを作成した。学校の看護師向けの研修を企画する者におかれては、これらを活用すること等により、研修受講者のニーズにあった、より効果的で魅力的な研修を企画することに努めていただきたい。

1. 看護職員研修担当者を対象とした研修モデル（例）

選択講義・選択演習については、受講対象者の特性や研修目的、研修時間等によって適宜選択する。講義と演習から1つずつ選択する形態、講義を2つ選択し演習を1つ選択する形態、選択講義を実施せず選択演習のみ実施する形態等、受講者のレディネスに合わせた様々な形態が考えられる。

| 共通講義 | | | | |
|---|----|---|--|---|
| 【ねらい】 参加者の レディネスを 揃える | 内容 | 行政説明 | 研修企画の流れと工夫 | 看護職員の基本 |
| | 目的 | 医療的ケアの現状を把握する | ・看護職員の研修ニーズ把握の重要性を理解する ・地域資源を活用した柔軟な発想に基づく研修企画（大学、病院、施設等活用）等を理解する | 看護職員の基本姿勢や視点を理解する |
| | 講師 | 行政関係者等 | 行政関係者等 | 指導的立場にある看護師等 |
| 選択講義 【研修ニーズに応じた講義の選択】 | | | | |
| 【ねらい】 専門的な 知識の向上 | 内容 | 選択講義A 「学校における医療的ケアに関する教育的意義」 | 選択講義B 「学校における看護職員の役割」 | 選択講義C 「高度な医療技術への対応」 |
| | 目的 | ・医療的ケア児の基本から実際について理解する ・医療的ケアの研修の方法等を理解する | ・看護師の立場から見た研修の在り方を理解する ・指導的立場にある看護師の役割を理解する | ・医療的ケア技術演習の方法を理解する ・高度な医療技術の研修開催の意義を理解する |
| | 講師 | 学校管理職、教員等 | 指導的立場にある看護師等 | 医療的ケア指導医等 |
| 選択演習 【研修ニーズに応じた演習の選択】 | | | | |
| 【ねらい】 ・実践力の 向上 ・自治体の 課題への反映 | 内容 | 選択演習① 「校内連携について」 | 選択演習② 「事例検討」 | 選択演習③ 「高度な医療技術の実施」 |
| | 目的 | ・教員と看護職員の連携や看護職員の教育的意義を理解する | ・各自治体における実践事例を共有するとともに、課題解決のための方策を検討する | ・気管カニューレ事故除去の対応や人工呼吸器の管理等を理解する ※オンライン実施の場合は、実施方法に検討が必要 |
| | 方法 | ・ファシリテーション ・ロールプレイ | ・ケースカンファレンス | ・実技 |
| 評価 | 目的 | ・次年度の看護職員研修担当者を対象とした研修の企画を理解する ・次年度の医療的ケア実施体制の改善・充実を図る | | |
| | 方法 | 直後アンケート | ・研修に対する満足度や研修ニーズに対する充足度の確認 | |
| | | 追跡調査 | ・看護職員研修担当者による看護職員研修開催状況の把握 ・各自治体における医療的ケア実施体制改善状況の把握 | |

2. 看護職員研修担当者を対象とした研修企画に関するチェックリスト

| 項目 | ✓欄 | 内容 |
|----|----|---|
| 事前 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自治体における医療的ケア実施上の現状や課題を把握しているか。 ・ 国の通知等に示された体制が整備されているか。 ・ 医療的ケア児の在籍状況等を踏まえているか。 ・ 看護師の人数や雇用形態等を踏まえているか。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自治体における研修ニーズを把握しているか。 ・ 看護職員のニーズを把握しているか。 ・ 管理職や教員のニーズを把握しているか。 ・ 保護者や関係機関等からの要望を把握しているか。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修の対象者が定まっているか。 ・ 研修の対象者と研修の目的は対応しているか。 |
| 内容 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 共通講義が設定されているか。 ・ 参加者のレディネスを揃え、研修の目的を共通理解する内容になっているか。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修の目的や参加者のニーズに応じた知識の向上を図ることができる講義が設定されているか。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 看護職員研修企画の向上につながる演習が設定されているか。 |
| 評価 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 事後アンケートを実施しているか。 ・ 研修の満足度や研修ニーズに対する充足度を把握するための項目が設定されているか。 ※オンライン研修の場合は、アンケートフォームの活用による、参加者・運営者両方の負担軽減を検討することも必要 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 事後の状況を把握しているか。 ・ 研修内容が、次年度の各自治体における看護職員研修に活かされているか。 ・ 各自治体において開催された看護職員研修が、医療的ケア実施体制整備に活かされているか。 ・ 上記を把握するための学校訪問や各種会議等による情報収集の仕組みが整備されているか。 |

参考文献

- ・日本訪問看護財団(2019). 文部科学省 令和元年度 学校における医療的ケア実施体制構築事業 学校における医療的ケア実施対応マニュアル 看護師用.
- ・文部科学省(2019). 学校における医療的ケアの今後の対応について 通知.
- ・文部科学省(2020). 令和元年度学校における医療的ケアに関する実態調査.
- ・厚生労働省(2020). 第17回医療計画の見直し等に関する検討会 資料1-3「医療的ケア児等の支援に係る施策の動向」.
- ・日本看護協会(2016). 「看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)」活用のための手引き
1. 開発の経緯.
- ・日本看護協会(2016). 「看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)」活用のための手引き
2. 導入・活用編.
- ・日本看護協会(2017). 「看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)」活用のための手引き
3. 学習内容編.
- ・日本看護協会(2018). 「看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)」活用のための手引き
4. 施設における活用例編.
- ・西方 弥生, 菅野 由美子, 丸山 有希他(2019). 特別支援学校における医療的ケアに関する養護教諭と看護師との連携・協働が困難となる要因と養護教諭の配慮・工夫—養護教諭のインタビューから効果的な連携・協働を考える—. 神戸女子大学看護学部紀要, 4, 19-30.
- ・山本 陽子, 二宮 啓子, 岡永真由美他(2019). 介護保険法改正後の特別支援学校における医療的ケアの実施・支援体制の実態—医療的ケアに携わっている教諭の視点から—. 神戸市看護大学紀要, 23, 1-9.
- ・鈴木 康之, 舟橋 満寿子 編(2019). 新生児医療から療育支援へ—すべてのいのちを育むために—. インターメディカ.
- ・篠田 達明 監(2015). 肢体不自由児の医療・療育・教育. 金芳堂.
- ・田中 道子, 前田 浩利 編(2015). Q&A と事例でわかる訪問看護 小児・重症児者の訪問看護. 中央法規出版.
- ・吉田 武男 監(2018). MINERVA はじめて学ぶ教職⑧ 教育の法と制度. ミネルヴァ書房.

参考資料

- 資料1 令和2年度文部科学省委託事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」看護職員を対象とした研修の実態や研修ニーズ等に関する調査 ご協力のお願い（教育委員会調査）
- 資料2 看護職員を対象とした研修の実態や研修ニーズ等に関する調査（教育委員会調査）
- 資料3 令和2年度文部科学省委託事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」看護職員を対象とした研修の実態や研修ニーズ等に関する調査 ご協力のお願い（看護職員調査）
- 資料4 看護職員を対象とした研修の実態や研修ニーズ等に関する調査（看護職員調査）
- 資料5 2020年度文部科学省委託事業「学校における医療的ケアに関する看護職員の研修企画」研究協議会の開催について
- 資料6 WEB 研修前アンケート調査票
- 資料7 WEB 研修後アンケート調査票

令和 2 年 1 0 月

医療的ケア児が通学する学校を設置する教育委員会 御中

令和 2 年度文部科学省委託事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」
看護職員を対象とした研修の実態や研修ニーズ等に関する調査
ご協力をお願い

公益財団法人 日本訪問看護財団
一般社団法人 全国訪問看護事業協会
みずほ情報総研株式会社

謹啓 時下、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

近年、医療技術の進歩等を背景として、人工呼吸器や胃ろう等を使用し、日常生活において喀痰吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要とする幼児児童生徒（以下「医療的ケア児」とします。）が増えており、学校に通学する医療的ケア児も増加傾向にあります。

学校において医療的ケア児が安全にかつ安心して学ぶことができるようにするためには、医療的ケアに対応する看護師及び准看護師（以下「看護職員」とします。）が円滑に業務を遂行し、その専門性を向上させることができるように、学校の設置者である教育委員会等が適切な研修機会を提供するとともに、生活の場、療養の場、学びの場において、医療的ケア児を支える看護職員が、切れ目のない連携の下、質の高いケアを提供することが求められています。

今回、文部科学省委託事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の一環として、①学校において医療的ケアに対応する看護職員を対象とした研修の実態やニーズのほか、②地域の関係者との連携状況等を把握することを目的とした調査（WEB 上で回答）を、医療的ケア児が通学している特別支援学校を設置する都道府県教育委員会及び政令指定都市教育委員会、並びに当該学校に配置される看護職員を対象に実施することとしました。

つきましては、ご多用のところ、誠に恐縮でございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、令和 2 年 1 0 月 3 0 日（金）までに教育委員会調査にご回答くださるとともに、医療的ケア児が通学する特別支援学校に配置される看護職員（1 校につき 2 人）に対して調査の実施を周知くださるようよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査結果については調査目的以外に使用することは無く、調査結果については委託事業の成果報告として令和 3 年 4 月以降に文部科学省のホームページで公表される予定です。

【回答方法】指定のアドレス（<https://www.iryotekicare2020.jp/>）にアクセスいただき、ご回答ください。回答に当たっては、別紙「実施要領」をご覧ください。

謹白

【お知らせ】公益財団法人日本訪問看護財団では、文部科学省委託事業として、都道府県教育委員会等の医療的ケアの担当者及び指導的立場の看護師を対象とした研修会を令和 2 年 12 月に開催予定です。正式な開催案内については 10 月頃に行う予定です。

【お問合せ先】

【委託元】 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

(別紙)

看護職員を対象とした研修の実態やニーズ等に関する調査 実施要領

1. 調査の概要

【目的】

- ◇ 本調査は、①学校において医療的ケアに対応する看護職員を対象とした研修の実態やニーズのほか、②地域の関係者との連携状況等を把握することを目的として実施いたします。
- ◇ 調査は、文部科学省委託事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の一環として、委託先である公益財団法人日本訪問看護財団、一般社団法人全国訪問看護事業協会、みずほ情報総研株式会社が実施いたします。
- ◇ 本調査へのご協力は任意であり、ご協力をいただかないことで不利益が生じることはありません。また、本調査結果は統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

【対象・方法】

- ◇ 本調査には、「教育委員会調査」と「看護職員調査」の2種類があります。

| | ＜教育委員会調査＞ | ＜看護職員調査＞ |
|------|--|---|
| 調査対象 | ✓ 医療的ケア児が通学している特別支援学校を設置する教育委員会 | ✓ 医療的ケア児が通学している特別支援学校に配置されている看護職員、1校につき2人 |
| 調査内容 | I. 学校配置の看護職員について II. 教育委員会が主催している研修の実際について III. 初任者を対象とした研修の実施状況について IV. 学校における医療的ケアの質を確保するための研修上の工夫について V. 教育委員会に対する「企画研修」開催に関する意向等について | I. 回答者ご自身について II. 看護職員としての役割・業務について III. 医療的ケアへの対応状況について IV. 学校における医療的ケア実施に当たっての課題について V. 多職種連携について VI. 看護職員を対象とした研修の受講状況・要望について |
| 方法 | ✓ 自記式調査（WEB上で回答） | ✓ 匿名自記式調査（WEB上で回答） |

2. 回答期限

- ◇ 調査回答期限は**令和2年10月30日(金)**です。
- ◇ 期日までに、WEB画面上でご回答くださいますようお願い致します。

3. お問い合わせ先

- ◇ 調査の案内方法や回答方法についてご不明な点等ございましたら、以下の調査事務局までお知らせください。

【調査事務局】

【委託元】 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

4. 送付物一覧とご依頼事項

(1) 送付物一覧

- ◇ この度、貴教育委員会へご案内している資料は以下のとおりです。

- ・調査依頼状
- ・実施要領(本資料)
- ・看護職員向け調査依頼状・実施要領

(2) ご依頼事項

① 教育委員会調査へのご回答

- ◇ 学校に配置されている看護職員を対象とした研修について把握しておられる方にご回答をお願い致します。
- ◇ p.3に記載の「5. WEBアンケート調査 回答方法」に沿って、回答期限までにご回答ください。

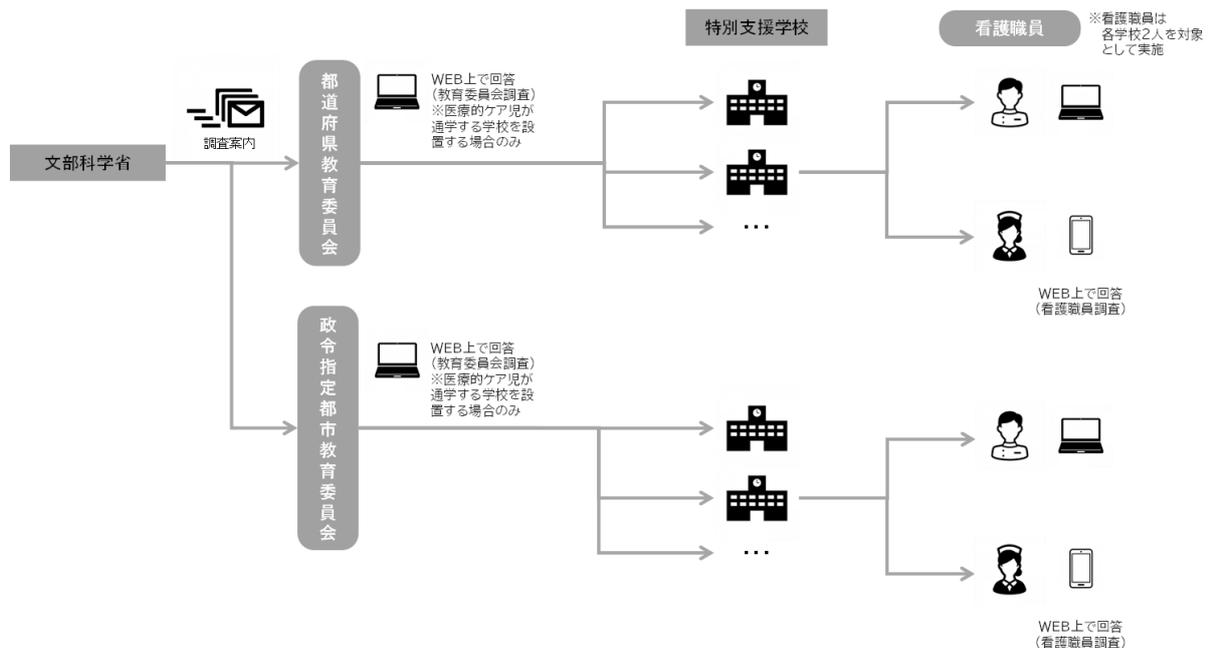
② 看護職員への調査のご案内

- ◇ 貴教育委員会が設置する医療的ケア児が通学する特別支援学校に配置されている看護職員のうち、以下の条件に該当する方に、添付の「看護職員向け調査依頼状・実施要領」のご案内をお願いいたします。

- ・看護職員の業務や学校内外関係者との連携について把握されておられる方
1校につき2人*

※常勤・非常勤は問いません。調査対象となる2人を選定いただく際は、可能な限り、学校での勤務経験年数に偏りがないようご配慮ください。

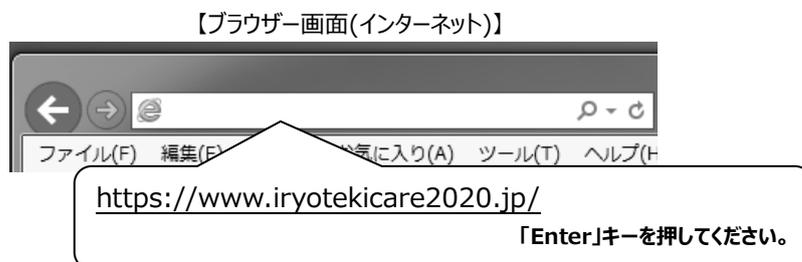
<参考：調査フローイメージ>



5. WEBアンケート調査 回答方法

- ◇ 以下の手順でご回答ください。パソコンからの回答方法を掲載しておりますが、同様の方法で、スマートフォン等からもご回答頂けます。

- ① WEB アンケート画面へのアクセス(ブラウザにWEB アンケート調査のアドレス URL を入力)
 ・「<https://www.iryotekicare2020.jp/>」と入力して、Enter キーを押下してください。

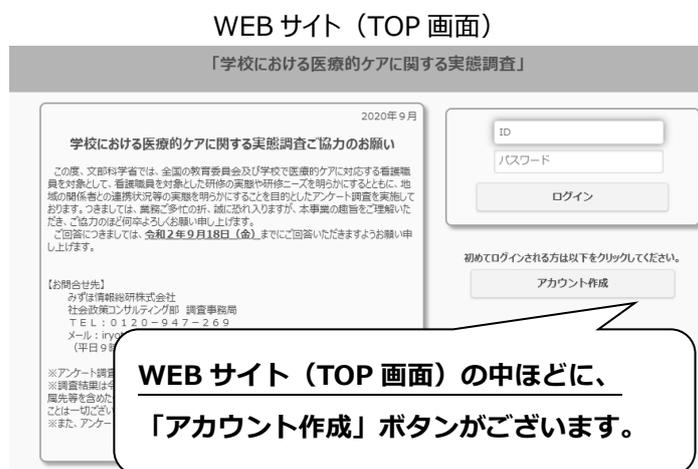


- ② アカウントを新規に作成

- ・初回ログイン時は、「アカウント作成」のボタンを押下してください。
- ・回答する調査票※¹、該当する都道府県、市区町村※²を選択し、「登録」ボタンを押下すると、IDとパスワードが発行されます。
- ・IDとパスワードは、再ログイン時に必要となりますので、必ずお手元に控えてください。

※1: 都道府県教育委員会、政令指定都市教育委員会、学校に配置されている看護職員によって、回答頂く調査票が異なります。

※2: 市区町村の選択が必要なのは、政令指定都市教育委員会、学校で勤務されている看護職員の方のみです。(調査票で「都道府県教育委員会」を選択した場合、市区町村の入力欄は表示されません。)



- ③ アンケート回答の入力

- ・ログイン後、表示されるアンケート画面に沿って、ご回答ください。
- ・回答途中で内容を一時保存する場合は、回答ページ末尾の「送信 (保存)」ボタンを押してください。回答を再開する場合は、ログイン画面でID・パスワードを入力してください。
- ・回答完了後、必ず「送信 (保存)」ボタンを押して、送信してください。

- ④ その他、操作上の注意

- ・ご自身のID・パスワードを忘れた場合は、調査事務局までお問合せください。

以上

看護職員を対象とした研修の実態や研修ニーズ等に関する調査 (教育委員会調査)

※本調査における用語の定義

- ・看護職員…看護師・准看護師
- ・医療的ケア児…日常生活において医療的ケア（人工呼吸器や導尿等）が必要な幼児・児童・生徒

都道府県名・市区町村名：

部署名：

役職名：

ご氏名：

ご連絡先（電話・メール）：

※特に指定がない場合は、令和2年10月1日時点の情報についてお答えください。

I. 基本情報

問1 貴教育委員会として該当するものをお選びください。(○は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 都道府県教育委員会 | 2. 政令指定都市教育委員会 |
|--------------|----------------|

II. 学校に配置される看護職員について

問2 学校で医療的ケアに対応する看護師及び准看護師(以下、「看護職員」という。)を雇用等する際、看護職員としての実務経験等の要件を定めていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 定めている →問3へ | 2. 定めていない →問4へ |
|---------------|----------------|

問3 上記問2で「1」を選んだ場合、どのような要件を定めていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 一定年数以上の臨床経験 | 2. 小児看護の経験 |
| 3. 在宅看護の経験 | 4. 学校における勤務の経験 |
| 5. その他() | |

問4 看護職員の雇用形態(常勤/非常勤)はどのようになっていますか。(○は1つ)

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 常勤のみ | 2. 常勤・非常勤の両方 |
| 3. 非常勤のみ | 4. その他() |

問5 貴教育委員会が設置する学校に配置される看護職員を、外部委託していますか。外部委託している場合、委託先を選択ください。

| | |
|-----------------------|---|
| (1)看護職員の外部委託の有無(○は1つ) | 1. 外部委託している →(2)へ 2. 外部委託していない →問6へ 3. 把握していない →問6へ |
| (2)委託先(○はいくつでも) | 1. 訪問看護ステーション 2. 病院・診療所 (開設主体→01:公立※ 02:公立以外) 3. その他 |

※公立:都道府県、市町村、地方独立行政法人、等が設置するもの

問6 指導的立場にある看護師(※)についてお伺いします。

※ 医療的ケアの他に、例えば、外部関係機関との連絡調整や看護師等間の業務調整、看護師等の相談・指導・カンファレンスの開催、研修会の企画・運営、医療的ケアに関する教職員からの相談、等の業務に従事している看護師

(1) 貴教育委員会の管轄には、看護職員に対する指導的立場にある看護師はいますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. いる →(2)へ | 2. いない →問7へ |
|-------------|-------------|

(2) 上記(1)で「1」を選んだ場合、当該看護師はどこに配属されていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 都道府県教育委員会 | 2. 政令指定都市教育委員会 |
| 3. 学校 | 4. その他() |

Ⅲ. 教育委員会が主催している研修※の実際について

※教育委員会が主催者となって学校配置の看護職員に提供している、学校における勤務や医療的ケアへの対応に必要な知識・技術等に関して学ぶ機会を指します。研修や講習などの名称や、実施形態を問いません。

問7 教育委員会が主催する看護職員を対象とした研修について、令和元年度における開催回数(実績)をお選びください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|---------|---------|--------------------|
| 1. 1～2回 | 2. 3～4回 | 3. 5回以上 | 4. 未実施 →問8(10)へ |
|---------|---------|---------|--------------------|

問8へ

問8 当該研修についてお伺いします。

(1) 研修は誰を対象としていますか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 学校配置の看護職員(→対象: 01 初任者(着任前) 02 初任者(着任後) 03 現任者) |
| 2. 指導的立場にある看護師 |
| 3. その他() |

(2) 研修は受講必須ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1. 看護職員全員が受講必須である | 2. 看護職員のうち一部対象者は受講必須である |
| 3. 受講必須ではない(任意で参加) | |
| 4. その他() | |

(3) 看護職員への研修は、1回につきどのくらいの時間を設定していますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 1時間～2時間程度 | 2. 半日 |
| 3. 1日 | 4. 数日以上 |

(4) 研修の企画に当たり、どのような関係者等と相談・調整をしていますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|--------------|--------------|-----------------------|
| 1. 学校に勤務する教員 | 2. 学校配置の看護職員 | 3. 指導的立場にある看護師 |
| 4. 学校医 | 5. 医療的ケア指導医※ | 6. 医師会 |
| 7. 看護協会等 | 8. 看護系教育機関 | 9. 行政(医療・保健・福祉等の担当部局) |
| 10. その他() | 11. 特になし | |

※医療的ケア指導医:特に医療的ケアについて助言や指導を得るための医師として教育委員会が委嘱した者

(5)看護職員に対する研修の目的は何ですか。(〇はいくつでも)

| | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 医療的ケアの質の確保 | 2. 医療的ケアの方法・手技の統一 |
| 3. 看護職員の医療技術の質向上 | 4. 看護職員の負担軽減 |
| 5. 看護職員の離職防止 | 6. 看護職員の不安解消 |
| 7. 看護職員と教員等の多職種連携 | 8. 学校における看護職員の役割 |
| 9. その他() | |

(6)看護職員に対する研修のプログラムをどのように組み立てていますか。(〇はいくつでも)

| |
|---------------------------------|
| 1. 現在通学(通園)している医療的ケア児に合わせて組み立てる |
| 2. 看護職員の要望に沿って組み立てる |
| 3. 教員の要望に沿って組み立てる |
| 4. 教育委員会の研修担当者が検討し組み立てる |
| 5. 指導的立場にある看護師が検討し組み立てる |
| 6. 毎年決まったプログラムがある |
| 7. その他() |

(7)看護職員の研修ニーズについてお伺いします。

①看護職員の研修ニーズをどのような方法で把握していますか。(〇はいくつでも)

| | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 看護職員に対して定期的にアンケート調査を行っている | 2. 看護職員に対して面談等で確認している |
| 3. 学校長が把握したことを間接的に確認している | 4. その他() |
| 5. 把握していない →(8)へ | |

②上記①で「1～4」のいずれかを選んだ場合、看護職員の研修ニーズには、どのようなものがありますか。(〇はいくつでも)

| | |
|--|------------------------------|
| 1. 医療的ケアの技術に関する知識 | 2. 医療的ケアの技術に関する演習 |
| 3. 学校における看護職員の役割 | 4. 校内における多職種連携(教員、学校医等) |
| 5. 校外における多職種連携(主治医、訪問看護師等) | 6. 学校制度や教員の専門性・役割 |
| 7. 学校と医療機関における医療的ケアの違い | 8. 子どもの理解(成長発達、健康問題等) |
| 9. 子どもの成長発達に応じた看護 | 10. 災害時の対応 |
| 11. 緊急時の対応 | 12. 新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策 |
| 13. 医療的ケア児の地域における生活及び生活を支える医療・保健・福祉等との連携 | 14. 学校内職員同士のケアカンファレンス |
| 15. 事例検討(各学校の事例を持ち寄り看護職員で検討) | 16. 看護職員同士の意見交換(悩みや経験の共有) |
| 17. その他() | |

(8) 研修のテーマは何ですか。研修の実施時期に応じて、①初任者研修(着任前)、②初任者研修(着任後)、③現任者向け研修のそれぞれについてお選びください。(〇はいくつでも)

| | ① 初任者研修 (着任前) | ② 初任者研修 (着任後) | ③ 現任者研修 |
|--|---------------------|---------------------|------------|
| 0. 実施していない | 0 | 0 | 0 |
| 1. 医療的ケアの技術に関する知識 | 1 | 1 | 1 |
| 2. 医療的ケアの技術に関する演習 | 2 | 2 | 2 |
| 3. 学校配置の看護職員の役割 | 3 | 3 | 3 |
| 4. 校内における多職種連携(教員、学校医等) | 4 | 4 | 4 |
| 5. 校外における多職種連携(主治医、訪問看護師等) | 5 | 5 | 5 |
| 6. 学校制度や教員の専門性・役割 | 6 | 6 | 6 |
| 7. 学校と医療機関における医療的ケアの違い | 7 | 7 | 7 |
| 8. 子どもの理解(成長発達、健康問題等) | 8 | 8 | 8 |
| 9. 子どもの成長・発達に応じた看護 | 9 | 9 | 9 |
| 10. 災害時の対応 | 10 | 10 | 10 |
| 11. 緊急時の対応 | 11 | 11 | 11 |
| 12. 新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策 | 12 | 12 | 12 |
| 13. 医療的ケア児の地域における生活及び生活を支える医療・保健・福祉等との連携 | 13 | 13 | 13 |
| 14. 学校内職員同士のケアカンファレンス | 14 | 14 | 14 |
| 15. 事例検討(各学校の事例を持ち寄り看護職員で検討) | 15 | 15 | 15 |
| 16. 看護職員同士の意見交換(悩みや経験の共有) | 16 | 16 | 16 |
| 17. その他() | 17 | 17 | 17 |

(9) 研修は、どのような形式で実施していますか。(〇はいくつでも)

| | | |
|----------------|--------------------|----------------|
| 1. 講義(座学) | 2. グループワーク | 3. 実技見学(モデル人形) |
| 4. 実技演習(モデル人形) | 5. 実技見学(実際の医療的ケア児) | 6. その他() |

(10) 学校における医療的ケアの質を確保する上で、看護職員を対象とした研修について、課題や困難であると感じる内容をお選びください。 ※実施の有無にかかわらずお答えください。(〇はいくつでも)

| | 初任者研修 | 現任者研修 |
|---------------------|-------|-------|
| 1. 課題や困難はない | 1 | 1 |
| 2. 研修を開催する時間が取れない | 2 | 2 |
| 3. 研修講師を確保できない | 3 | 3 |
| 4. 研修の場所が確保できない | 4 | 4 |
| 5. 看護職員により経験の差が大きい | 5 | 5 |
| 6. 看護職員の研修ニーズがわからない | 6 | 6 |
| 7. 実技演習が難しい | 7 | 7 |
| 8. その他 | 8 | 8 |

(11)都道府県教育委員会の方にお伺いします。

市区町村が看護職員に対する研修を企画開催する場合、都道府県の教育委員会として、どのようにサポートしていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1. 市区町村は研修を企画開催していない | 2. 企画から開催まで全面的に担当者がサポートしている |
| 3. 市区町村から相談を受けたらサポートしている | 4. 市区町村が研修を企画開催しているが任せている |
| 5. その他() | |

IV. 学校における医療的ケアの質を確保するための研修上の工夫について

問9 研修を企画・開催する上で、学校における医療的ケアの質を確保するために効果があると思われる取組はありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1. ある →問10へ | 2. ない・分からない →問11へ |
|-------------|-------------------|

問10 上記問9で「1」を選んだ場合、その内容をお選びください。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1. WEB 研修を取り入れている | 2. 医師に講師を依頼している |
| 3. 訪問看護師に講師を依頼している | 4. 医療機器業者に講師を依頼している |
| 5. 医療的ケア児や保護者にも協力してもらっている | 6. 看護職員と教員と一緒に研修を受けている |
| 7. 外部の施設(大学、病院等)を利用して研修をしている | 8. 市販のテキストを利用している |
| 9. 自治体で独自にテキストを作成している | |
| 10. その他() | |

V. 教育委員会に対する「企画研修※」開催に関する意向等について

※今年度、看護職員に対する研修を企画・運営する立場の教育委員会担当者及び指導的立場の看護師に対して、「企画研修」を開催することを予定しています。

「企画研修」: 現任の看護職員が、最新の医療知識や看護技術等を習得することを目的とした研修を、教育委員会が企画・開催するための教育委員会向けの研修

問11 企画研修の内容として取り上げてほしい内容等について教えてください。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 効果的な研修の開催方法を知りたい |
| 2. どのような内容の研修が適切なのか知りたい |
| 3. 講師の選定方法を知りたい |
| 4. 医療的ケア児に関連する法律や制度について知りたい |
| 5. 学校における医療的ケアに役立つ地域資源を知りたい |
| 6. 看護職員のことを知りたい |
| 7. 医療的ケア児の学校以外の療養生活やケアを知りたい |
| 8. 医療的ケア児を支援する医療・福祉職の役割を知りたい |
| 9. 他の地域の実践状況や工夫を知りたい |
| 10. 新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策の研修方法を知りたい |
| 11. その他() |

問12 今後、看護職員を対象とした研修について、見直しや改善を予定しているものがあれば、具体的な内容についてご記入ください。

問13 その他、看護職員を対象とした研修について、ご意見・ご要望があればご自由にご記入ください。

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和2年10月

令和2年度文部科学省委託事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」
看護職員を対象とした研修の実態や研修ニーズ等に関する調査
ご協力のお願い

公益財団法人 日本訪問看護財団
一般社団法人 全国訪問看護事業協会
みずほ情報総研株式会社

謹啓 時下、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

近年、医療技術の進歩等を背景として、人工呼吸器や胃ろう等を使用し、日常生活において喀痰吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要とする幼児児童生徒（以下「医療的ケア児」とします。）が増えており、学校に通学する医療的ケア児も増加傾向にあります。

学校において医療的ケア児が安全にかつ安心して学ぶことができるようにするためには、医療的ケアに対応する看護師及び准看護師（以下「看護職員」とします。）が円滑に業務を遂行し、その専門性を向上させることができるように、学校の設置者である教育委員会等が適切な研修機会を提供するとともに、生活の場、療養の場、学びの場において、医療的ケア児を支える看護職員が、切れ目のない連携の下、質の高いケアを提供することが求められています。

今回、文部科学省委託事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の一環として、①学校において医療的ケアに対応する看護職員を対象とした研修の実態やニーズのほか、②地域の関係者との連携状況等を把握することを目的とした調査（WEB上で回答）を、医療的ケア児が通学している特別支援学校を設置する都道府県教育委員会及び政令指定都市教育委員会、並びに当該学校に配置される看護職員を対象に実施することとしました。

本調査結果については調査目的以外に使用することは無く、調査結果については委託事業の成果報告として令和3年4月以降に文部科学省のホームページで公表される予定です。

ご多用のところ、誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、令和2年10月30日（金）までに調査へのご回答にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

【回答方法】 指定のアドレス（<https://www.iryotekicare2020.jp/>）にアクセスいただき、ご回答ください。回答に当たっては、別紙「実施要領」をご覧ください。

謹白

【お知らせ】 公益財団法人日本訪問看護財団では、文部科学省からの委託事業として、都道府県教育委員会等の医療的ケアの担当者及び指導的立場の看護師を対象とした研修会を令和2年12月に開催予定です。正式な開催案内については10月頃に行う予定です。

【お問合せ先】

【委託元】 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

看護職員を対象とした研修の実態やニーズ等に関する調査 実施要領

1. 調査の概要

【目的】

- ◇ 本調査は、①学校において医療的ケアに対応する看護職員を対象とした研修の実態やニーズのほか、②地域の関係者との連携状況等を把握することを目的として実施いたします。
- ◇ 調査は、文部科学省委託事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の一環として、委託先である公益財団法人日本訪問看護財団、一般社団法人全国訪問看護事業協会、みずほ情報総研株式会社が実施いたします。
- ◇ 本調査へのご協力は任意であり、ご協力をいただかないことで不利益が生じることはございません。また、本調査結果は統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

【対象】

- ◇ 医療的ケア児が通学する特別支援学校に配置されている看護職員のうち、以下の条件に該当する方
 - ・看護職員の業務や学校内外関係者との連携について把握されておられる方
1校につき2人

【方法】

- ◇ 匿名自記式調査（WEB上での回答）

2. 回答期限

- ◇ 調査回答期限は**令和2年10月30日(金)**です。
- ◇ 期日までに、WEB画面上でご回答くださいますようお願い致します。
※具体的な回答方法は「4. WEBアンケート調査 回答方法」をご参照ください。

3. お問い合わせ先

- ◇ 調査の案内方法や回答方法についてご不明な点等ございましたら、以下の調査事務局までお知らせください。

【調査事務局】

【委託元】 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

4. WEBアンケート調査 回答方法

- ◇ 以下の手順でご回答ください。パソコンからの回答方法を掲載しておりますが、同様の方法で、スマートフォン等からもご回答頂けます。

- ① WEB アンケート画面へのアクセス(ブラウザにWEB アンケート調査のアドレス URL を入力)
 ・「<https://www.iryotekicare2020.jp/>」と入力して、Enter キーを押下してください。

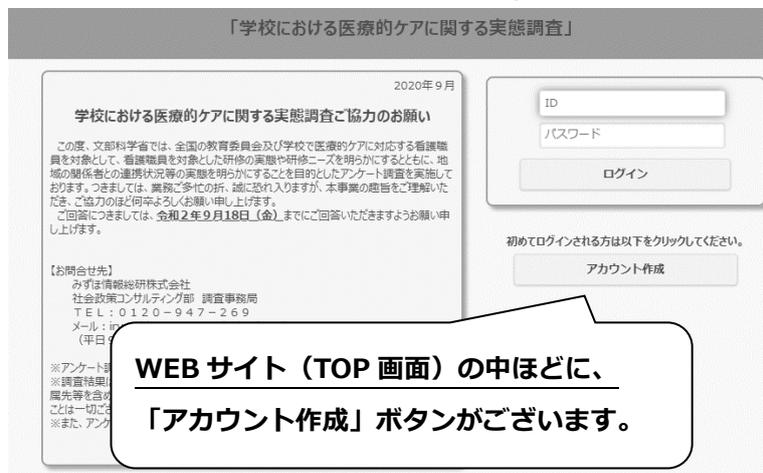


② アカウントを新規に作成

- ・初回ログイン時は、「アカウント作成」のボタンを押下してください。
- ・回答する調査票※、該当する都道府県、市区町村を選択し、「登録」ボタンを押下すると、IDとパスワードが発行されます。
- ・IDとパスワードは、再ログイン時に必要となりますので、必ずお手元に控えてください。

※ 都道府県教育委員会、政令指定都市教育委員会、学校に配置されている看護職員によって、回答頂く調査票が異なります。

WEB サイト (TOP 画面)



③ アンケート回答の入力

- ・ログイン後、表示されるアンケート画面に沿って、ご回答ください。
- ・回答途中で内容を一時保存する場合は、回答ページ末尾の「送信 (保存)」ボタンを押下してください。回答を再開する場合は、ログイン画面でID・パスワードを入力してください。
- ・回答入力後、必ず「送信 (保存)」ボタンを押して、送信してください。

④ その他、操作上の注意

- ・ご自身のID・パスワードを忘れた場合は、調査事務局までお問合せください。

以上

看護職員を対象とした研修の実態や研修ニーズ等に関する調査 (看護職員調査)

※本調査における用語の定義

- ・看護職員…看護師・准看護師
- ・医療的ケア児…日常生活において医療的ケア（人工呼吸器や導尿等）が必要な幼児・児童・生徒

都道府県名・市区町村名：

学校名：

※以降、特に指定がない場合は、令和2年10月1日時点の情報についてお答えください。

I. あなたご自身について

問1 保有資格として該当するものをお選びください。(○は1つ)

| | |
|-------------------|---------|
| 1. 看護師(保健師・助産師含む) | 2. 准看護師 |
|-------------------|---------|

問2 現在勤務している学校における、あなたの勤務形態等についてお答えください。なお、複数の学校で勤務している場合は、主として勤務している学校での勤務形態等をお答えください。
(それぞれ○は1つ)

| | | | |
|-----------------|---|----------|---|
| (1)勤務形態 | 1. 常勤 | 2. 非常勤 | 3. それ以外 →3を選んだ方は、質問は以上です。 ご協力ありがとうございました。 |
| (2)勤務日数 | 1. 週5日 | 2. 週3～4日 | 3. 週1～2日 4. 不定期 |
| (3)勤務日1日当たり勤務時間 | 勤務日1日当たり、約()時間 ※四捨五入して整数でご記入ください。 | | |

問3 看護職員としてのこれまでのご経験についてお伺いします。

雇用形態に関わらず、看護師・准看護師としての経験年数(通算)※をそれぞれお選びください。
(それぞれ○は1つ)

※休職・離職されていた期間は含めないでください。

※保健師及び助産師としての経験は含めないでください。

| (1)看護職員の経験年数 | (2)小児看護の実務経験の有無 | (3)学校での看護職員の経験年数 |
|---------------|-----------------|------------------|
| 1. 1年未満 | 1. 実務経験あり | 1. 1年未満 |
| 2. 1年以上5年未満 | 2. 実務経験なし | 2. 1年以上5年未満 |
| 3. 5年以上10年未満 | | 3. 5年以上10年未満 |
| 4. 10年以上20年未満 | | 4. 10年以上20年未満 |
| 5. 20年以上 | | 5. 20年以上 |

Ⅱ. 看護職員としての役割・業務について

問4 あなたは看護職員の中で、指導的な立場の看護師(※)の業務に従事していますか。(○は1つ)

※ 医療的ケアの他に、例えば、外部関係機関との連絡調整や看護師等間の業務調整、看護師等の相談・指導・カンファレンスの開催、研修会の企画・運営、医療的ケアに関する教職員からの相談、等の業務に従事している看護師

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 従事している | 2. 従事していない |
|-----------|------------|

問5 あなたの看護職員としての役割・業務をお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1. 医療的ケア児のアセスメント | 2. 医療的ケア児の健康管理 |
| 3. 医療的ケアの実施 | 4. 主治医、学校医、医療的ケア指導医※等医療関係者との連絡・報告 |
| 5. 教職員・保護者との情報共有 | 6. 認定特定行為業務従事者への指導・助言 |
| 7. 医療的ケアの記録・管理・報告 | 8. 必要な医療器具・備品等の管理 |
| 9. 指示書に基づく個別マニュアルの作成 | 10. 緊急時のマニュアル作成 |
| 11. ヒヤリ・ハット等の事例の蓄積と予防対策 | 12. 緊急時の対応 |
| 13. 教職員全体の理解啓発 | 14. 自立活動の指導の支援等 |
| 15. 医療的ケア児以外の児童生徒への教育の支援 | 16. 通学時(中)のケア |
| 17. 外部関係機関(医療・保健・福祉等)との連絡調整 | 18. 看護職員の業務調整 |
| 19. 看護職員の相談・指導・カンファレンスの開催 | 20. 研修会の企画・運営 |
| 21. 医療的ケアに関する教職員からの相談 | 22. その他() |

※医療的ケア指導医:特に医療的ケアについて助言や指導を得るための医師として教育委員会が委嘱した者

Ⅲ. 医療的ケアへの対応状況について

問6 現在、あなたが実施している医療的ケアの内容等についてお伺いします。

(1)あなたが1日のうちに対応している医療的ケア児数をご記入ください。

約()人

(2)あなたが学校で実施している医療的ケアの内容をお選びください。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------------|------------------------------|-----------------|
| 1. 経管栄養(経鼻留置) | 2. 経管栄養(胃ろう・腸ろう) | 3. 中心静脈栄養 |
| 4. 口腔・鼻腔内吸引 | 5. 気管切開部(気管カニューレ内)からの吸引 | 6. 経鼻咽頭エアウェイ内吸引 |
| 7. 薬液吸入 | 8. 酸素療法 | 9. 人工呼吸療法 |
| 10. 排痰補助装置 | 11. 膀胱留置カテーテル | 12. 浣腸 |
| 13. 間欠的導尿 | 14. 血糖値の測定及びその後の処置(インスリン注射等) | 15. 人工肛門・人工膀胱 |
| 16. その他() | | |

IV. 学校における医療的ケア実施にあたっての課題について

問7 医療的ケア実施にあたっての課題や困難についてお伺いします。

(1) 医療的ケア児の業務に関わる上で、どのような課題や困難を感じることがありますか。①初めて学校に看護職員として着任した当初に課題・困難であると感じたこと、②現在課題・困難であると感じていること、のそれぞれについてお選びください。(それぞれ〇はいくつでも)

| | | ①着任当初 | ②現在 |
|----------------|-----------------------------|-------|-----|
| | 特になし | 0 | 0 |
| 経験・専門性について | 1. これまでと異なる環境や手順での医療的ケアの実施 | 1 | 1 |
| | 2. 経験のない医療的ケアへの対応 | 2 | 2 |
| | 3. 経験のない対象(子ども)への対応 | 3 | 3 |
| | 4. 医療的ケア児の成長発達に応じた看護の提供 | 4 | 4 |
| 学校特有の環境について | 5. 身近に相談・確認できる医療職がいない環境での対応 | 5 | 5 |
| | 6. 学校組織や指揮命令系統などの仕組みの把握・理解 | 6 | 6 |
| | 7. 教員の専門性の理解 | 7 | 7 |
| 看護職員としての役割について | 8. 看護職員の役割や担当業務範囲の曖昧さ | 8 | 8 |
| | 9. 看護職員の裁量の少なさ | 9 | 9 |
| | 10. 医療的ケア児に関する情報の入手 | 10 | 10 |
| 多職種との連携について | 11. 教員(養護教諭を除く)との連携 | 11 | 11 |
| | 12. 養護教諭との連携 | 12 | 12 |
| | 13. 学校医・医療的ケア指導医との連携 | 13 | 13 |
| | 14. 主治医との連携 | 14 | 14 |
| | 15. 地域の関係者(訪問看護師等)との連携 | 15 | 15 |
| | 16. 保護者との連携 | 16 | 16 |
| | 17. 教育目標等を踏まえた医療的ケアの実施 | 17 | 17 |
| | 18. 保護者の意向を踏まえた対応 | 18 | 18 |
| 研修について | 19. 研修等、医療的ケアの質を担保する機会の確保 | 19 | 19 |
| その他 | 20. その他() | 20 | 20 |

(2) 上記(1)において課題・困難であると感じたこととして、「2. 経験のない医療的ケアへの対応」を選んだ方にお伺いします。課題・困難であると感じた医療的ケアをお選びください。(〇はいくつでも)

| | | |
|---------------|------------------------------|-----------------|
| 1. 経管栄養(経鼻留置) | 2. 経管栄養(胃ろう・腸ろう) | 3. 中心静脈栄養 |
| 4. 口腔・鼻腔内吸引 | 5. 気管切開部(気管カニューレ内)からの吸引 | 6. 経鼻咽頭エアウェイ内吸引 |
| 7. 薬液吸入 | 8. 酸素療法 | 9. 人工呼吸療法 |
| 10. 排痰補助装置 | 11. 膀胱留置カテーテル | 12. 浣腸 |
| 13. 間欠的導尿 | 14. 血糖値の測定及びその後の処置(インスリン注射等) | 15. 人工肛門・人工膀胱 |
| 16. その他() | | |

(3) 上記(1)で選んだ課題や困難について、ご意見等があれば具体的にご記入ください。

| | |
|-------|--|
| ①着任当初 | |
| ②現在 | |

V. 多職種連携について

問8 医療的ケア児に関して連携している「関係者」をお選びください。(〇はいくつでも)

| | | |
|------------|---------------|-------------|
| 1. 関係者はいない | 2. 医療的ケア児の主治医 | 3. 主治医以外の医師 |
| 4. 病院の看護職員 | 5. 訪問看護師 | 6. 行政の保健師 |
| 7. その他() | | |

問9 これまで、在学中の医療的ケア児を支援している訪問看護師と連携したことはありますか。
(〇は1つ)

| | | |
|-------------|-------------|----------------|
| 1. ある →問10へ | 2. ない →問11へ | 3. 分からない →問11へ |
|-------------|-------------|----------------|

問10 上記問9で「1」を選んだ方に、訪問看護師との連携についてお伺いします。

(1) 現在、あなたは何か所の訪問看護ステーションと連携していますか。

| |
|-------|
| ()か所 |
|-------|

(2) 訪問看護ステーションとは、どのような方法で連携していますか。(〇はいくつでも)

| | | | |
|-----------------|--------------|-------------------|---------------|
| 1. 電話 | 2. FAX | 3. メール | 4. 連絡帳等 |
| 5. 訪問看護からの情報提供書 | 6. 訪問看護師の来訪時 | 7. 訪問看護ステーションへ出向く | 8. 学校で実施する会議等 |
| 9. 学校外で開催される会議等 | 10. 保護者を介する | 11. その他() | |

(3) 訪問看護師との連携で良かった点をお選びください。(〇はいくつでも)

| |
|---|
| 1. 定期的に在宅での医療的ケア児の様子を文書等で報告してくれる |
| 2. 医療的ケア児に変化があった場合、タイムリーに情報共有を図ることができる |
| 3. 自宅での訪問看護師が行うケアの内容や手技等の情報を得ることにより、学校でのケアに役立てることができる |
| 4. 訪問看護師に学校での医療的ケア児の過ごし方を理解してもらうことができる |
| 5. 病院の医師や看護職員へ、校内での医療的ケア児の様子を伝えてくれる |
| 6. 顔の見える関係ができ、気軽に相談できる |
| 7. 安心して医療的ケアに関する業務に従事できる |
| 8. 最新の知識や情報を得ることができる |
| 9. お互いの看護職員の役割を理解してもらうことができる |
| 10. その他() |
| 11. 特になし |

(4) 訪問看護師との連携(看看連携)により、改善や効果がみられた事例がありましたら、ご記入ください。

| |
|--|
| |
|--|

問11 自地域において、医療的ケア児に関する訪問看護ステーションや地域の病院等との多機関・多職種連携を進める上で、課題と思われることがありましたらご記入ください。

| |
|--|
| |
|--|

VI. 看護職員を対象とした研修*の受講状況・要望について

*教育委員会や学校が主催者となって学校配置の看護職員に提供している、学校における勤務や医療的ケア児への対応に必要な知識・技術等に関して学ぶ機会を指します。研修や講習などの名称や、実施形態を問いません。

問12 教育委員会や学校が主催する、学校配置の看護職員を対象とした研修の受講経験はありますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|--|
| 1. ある →問13へ | 2. ない →理由:(1. 受講機会がないため 2. 必要性を感じないため 3. その他) →問14へ |
|----------------|--|

問13 上記問12で「1」を選んだ方にお伺いします。

(1) 研修の実施者は誰でしたか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 都道府県教育委員会 | 2. 政令指定都市教育委員会 |
| 3. 市区町村(政令指定都市を除く)教育委員会 | 4. 学校 |
| 5. その他() | |

(2) いつ受講しましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 着任前 | 2. 着任当初 |
| 3. 着任後、定期 | 4. 着任後、不定期 |

(3) 研修の内容はどのようなものでしたか。①初任者研修(着任前)で受講した内容、②初任者研修(着任後)で受講した内容、③現任者研修で受講した内容、のそれぞれについてお選びください。(それぞれ○はいくつでも)

| | ① 初任者研修 (着任前) | ② 初任者研修 (着任後) | ③ 現任者研修 |
|----------------------------|---------------------|---------------------|------------|
| 1. 医療的ケアの技術に関する知識 | 1 | 1 | 1 |
| 2. 医療的ケアの技術に関する演習 | 2 | 2 | 2 |
| 3. 学校配置の看護職員の役割 | 3 | 3 | 3 |
| 4. 校内における多職種連携(教員、学校医等) | 4 | 4 | 4 |
| 5. 校外における多職種連携(主治医、訪問看護師等) | 5 | 5 | 5 |
| 6. 学校制度や教員の専門性・役割 | 6 | 6 | 6 |
| 7. 学校と医療機関における医療的ケアの違い | 7 | 7 | 7 |

| | ① 初任者研修 (着任前) | ② 初任者研修 (着任後) | ③ 現任者研修 |
|--|---------------------|---------------------|------------|
| 8. 子どもの理解(成長発達、健康問題等) | 8 | 8 | 8 |
| 9. 子どもの成長・発達に応じた看護 | 9 | 9 | 9 |
| 10. 災害時の対応 | 10 | 10 | 10 |
| 11. 緊急時の対応 | 11 | 11 | 11 |
| 12. 新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策 | 12 | 12 | 12 |
| 13. 医療的ケア児の地域における生活及び生活を支える医療・保健・福祉等との連携 | 13 | 13 | 13 |
| 14. 学校内職員同士のケアカンファレンス | 14 | 14 | 14 |
| 15. 事例検討(各学校の事例を持ち寄り看護職員で検討) | 15 | 15 | 15 |
| 16. 看護職員同士の意見交換(悩みや経験の共有) | 16 | 16 | 16 |
| 17. その他() | 17 | 17 | 17 |

(4)研修はどのような形で開催されていますか。(〇はいくつでも)

| | |
|-----------|-----------|
| 1. 会場に集まる | 2. WEB |
| 3. 各学校内 | 4. その他() |

問14 あなたが必要である・受講したいと考える研修会の内容についてお伺いします。

- (1)着任当初を振り返って、着任前や着任当初に受講する必要があると考えられる研修(主に初任者を対象とした研修)の内容
- (2)着任後、最新の情報確認やブラッシュアップのために受講したいと考える研修(主に現任者を対象とした研修)の内容

について、それぞれ上位5つまでお選びください。(それぞれ〇は5つまで)

そのうち、特に必要である・受講したいと考える内容を1つ選んで、選択肢の番号をご記入ください。

| | (1) 着任前・着任当初 に必要な研修内容 | (2) 最新の情報確認 等のために受講 したい研修内容 |
|--|-----------------------------|--------------------------------------|
| 1. 医療的ケアの技術に関する知識 | 1 | 1 |
| 2. 医療的ケアの技術に関する演習 | 2 | 2 |
| 3. 学校配置の看護職員の役割 | 3 | 3 |
| 4. 医療的ケアを実施するための多職種連携(校内:教員、学校医等) | 4 | 4 |
| 5. 医療的ケアを実施するための多職種連携(校外:主治医、訪問看護師等) | 5 | 5 |
| 6. 学校制度や教員の専門性・役割 | 6 | 6 |
| 7. 学校と医療機関における医療的ケアの違い | 7 | 7 |
| 8. 子どもの理解(成長発達、疾患等) | 8 | 8 |
| 9. 子どもの成長・発達に応じた看護 | 9 | 9 |
| 10. 災害時の対応 | 10 | 10 |
| 11. 緊急時の対応 | 11 | 11 |
| 12. 新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策 | 12 | 12 |
| 13. 医療的ケア児の地域における生活及び生活を支える医療・保健・福祉等との連携 | 13 | 13 |
| 14. 学校内職員同士のケアカンファレンス | 14 | 14 |

| | (1) 着任前・着任当初 に必要な研修内容 | (2) 最新の情報確認 等のために受講 したい研修内容 |
|------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------|
| 15. 事例検討(各学校の事例を持ち寄り看護職員で検討) | 15 | 15 |
| 16. 看護職員同士の意見交換(悩みや経験の共有) | 16 | 16 |
| 17. その他() | 17 | 17 |
| 18. 特になし | 18 | 18 |

| | | |
|------------------------------|--|--|
| 特に必要である・受講したいと考える研修内容の番号を記入→ | | |
|------------------------------|--|--|

問15 教育委員会や学校が主催する研修の開催頻度(年間)として、希望する頻度をお選びください。
(○は1つ)

| | | |
|---------|---------|---------|
| 1. 1～2回 | 2. 3～4回 | 3. 5回以上 |
|---------|---------|---------|

問16 研修について、希望する実施形態や所要時間をお選びください。

(1)形式(○はいくつでも)

| | | |
|--------------------|--------------------|----------------------|
| 1. 講義(座学) | 2. グループワーク | 3. 実技見学(モデル人形) |
| 4. 実技演習(モデル人形) | 5. 実技見学(実際の医療的ケア児) | 6. 医療的ケア児が利用する施設等の見学 |
| 7. 医療的ケア児が暮らす自宅の見学 | 8. その他() | |

(2)所要時間(○は1つ)

| | |
|--------------|---------|
| 1. 1時間～2時間程度 | 2. 半日 |
| 3. 1日程度 | 4. 2日以上 |

問17 研修の評価についてお伺いします。

(1)看護職員の研修ニーズを、教育委員会等は把握していると思いますか。(○は1つ)

| | |
|---------------|--------------|
| 1. 十分把握している | 2. まあ把握している |
| 3. あまり把握していない | 4. 全く把握していない |

(2)あなたが受講したいと考える研修会は開催されていますか。それぞれ最も近い選択肢をお選びください。(それぞれ○は1つ)

| | 1. 十分開催されている | 2. ある程度開催されている | 3. あまり開催されていない | 4. 開催されていない |
|--------------|--------------|----------------|----------------|-------------|
| ① 初任者研修(着任前) | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 初任者研修(着任後) | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 現任者研修 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(3) 研修の時間的な負担はない・少ないと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. そう思う | 2. ややそう思う |
| 3. ややそう思わない | 4. そう思わない |

問18 その他、研修会に関する要望はありますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
| 具体的内容: | |

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

令和2年10月12日

都道府県教育委員会特別支援教育課
指定都市教育委員会特別支援教育課 御中

公益財団法人 日本訪問看護財団
理事長 清水嘉与子
(公 印 省 略)

2020年度文部科学省委託事業
「学校における医療的ケアに関する看護職員の研修企画」研究協議会
の開催について

時下 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度本財団では、文部科学省からの委託事業として、都道府県および指定都市教育委員会等の学校に勤務する看護職員向けの研修を企画する担当者、またはこれからそのような業務に就く予定の方を対象とした標題 Web 研修を開催いたします。

多くの方のご参加をお待ちしておりますので、よろしく願いいたします。

記

1. 参加対象 都道府県および政令都市の教育委員会等の学校に勤務する看護職員向けの研修を企画する担当者、またはこれからそのような業務に就く予定の方
2. 申込方法 QRコード、または下記 URL より申込の事項を入力して送信
<https://forms.gle/PukGKvtWiMvA1sbs5>
※個人情報については本事業以外では一切使用いたしません。
また、Web 上での申込ができない場合は、問い合わせ先までメールにてご連絡をお願いいたします。
3. 開催日時 令和2年12月4日(金) 10時～16時45分
4. 開催方法 Zoom を利用した Web 研修 (ライブ配信)
5. 受講料 無料 (ただし、各自治体1端末のみの接続)
6. 申込締切 令和2年11月6日(金曜日)
7. 内容(予定) 別添プログラム参照
8. お問い合わせ ご不明な点等ございましたら下記までお問い合わせください

【お問い合わせ先】

公益財団法人 日本訪問看護財団 事業部 担当 岸・山辺
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル5階
TEL 03-5778-7001 FAX 03-5778-7009
Eメールアドレス: kenkyu@jvnf.or.jp

研修開催要項

1. 実 施 者: 公益財団法人 日本訪問看護財団
2. 開 催 日 時: 令和 2 年 12 月 4 日(金)10:00~16:45
3. 研 修 名: 「学校における医療的ケアに関する看護職員の研修企画」研究協議会
※「看護職員」とは: 学校に勤務する医療的ケアに携わる看護師・准看護師資格を持つ職員をいいます。雇用形態は問いません。
4. ね ら い:
 - ・教育委員会担当者・指導的立場にある看護師が、看護職員を対象とした研修会を実施する手法を強化する
 - ・教育委員会担当者が、研修開催に関する各地域の課題を共有し検討することで解決策を見出すヒントを得る
5. 対 象 者: 都道府県及び政令指定都市の学校に勤務する看護職員向け研修を企画する担当者(指導的立場にある看護師含む)
6. 開 催 方 法: Zoom によるライブ配信
7. 受 講 料: 無料(ただし、各自治体 1 端末のみの接続)
8. 講義内容・講師: プログラム参照
9. 講 義 資 料
 - ・当日の講義資料: 開催 1 週間前までにダウンロードのご案内をいたします
 - ・「学校における医療的ケア実施対応マニュアル『看護師用』」: 1 部郵送いたします
10. 申込受付期間: 令和 2 年 10 月 12 日(金)~令和 2 年 11 月 6 日(金)
11. 申 込 方 法: QR コード、または下記 URL より申込の事項を入力して送信
<https://forms.gle/PukGKvtWiMvA1sbs5>
(Web 上での申込ができない場合は、問い合わせ先までメールにてご連絡ください)

【お問い合わせ先】

公益財団法人 日本訪問看護財団 事業部 担当 岸・山辺
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル5階
TEL 03-5778-7001 FAX 03-5778-7009
E メールアドレス: kenkyu@jvnf.or.jp

「学校における医療的ケアに関する看護職員の研修企画」研究協議会

プログラム

| 日程 | 研修内容 | 講師 |
|-------------|---|---|
| 10:00～10:05 | 開会あいさつ | 公益財団法人 日本訪問看護財団 |
| 10:05～10:30 | 学校における医療的ケアの現状と課題 | 文部科学省 |
| 10:30～11:15 | 教育委員会が企画する看護職員研修の企画について | 津川 周一 氏 (北海道教育庁学校教育局特別支援教育課 特別支援教育振興係 主査) |
| 11:15～11:20 | 小休憩 | |
| 11:20～11:30 | 「学校における医療的ケア実施対応マニュアル(看護師用)」の活用 | 公益財団法人 日本訪問看護財団 |
| 11:30～12:00 | 学校における看護職員の役割と協働(仮) | 奈良間 美保 氏 (京都橘大学 看護学科 教授) |
| 12:00～13:00 | 昼休憩 | |
| 13:00～13:30 | 有意義な研修開催のための提案① ・学校における医療的ケアに関する教育的な意義 ・校内体制の整備について(事例) | 中葉 哲郎 氏 (神奈川県立金沢養護学校 総括教諭) |
| 13:30～14:00 | 有意義な研修開催のための提案② ・看護職員の経験等に応じた研修ニーズの把握と対応 ・指導的立場にある看護師の役割とその育成 | 植田 陽子 氏 (豊中市教育委員会事務局 児童生徒課 支援教育係 係長/看護師) |
| 14:00～14:05 | 小休憩 | |
| 14:05～14:40 | 有意義な研修開催のための提案③ ・オンラインによる医療的ケア技術演習のデモ講義 ・高度な医療技術に関する研修実施の意義等 | 石井 光子 氏 (千葉県千葉リハビリテーションセンター 第一小児科部長/愛育園 園長) |
| 14:40～14:50 | 休憩 | |
| 14:50～16:20 | グループワーク | 下山 直人 氏 (筑波大学付属桐が丘特別支援学校 校長/国立大学法人筑波大学 人間系 教授) |
| 16:20～16:30 | 質疑応答 | |
| 16:30～16:45 | 総評・閉会挨拶 | |

注)プログラム・講師等は変更になる場合もございます。予めご了承ください。

Web研修前アンケート調査

本フォームは、文部科学省より委託を受けて公益財団法人 日本訪問看護財団が主催する「学校における医療的ケアに関する看護職員の企画研修」研究協議会(無料)の申し込み及び事前アンケートに使用されます。メールアドレスについては、Web研修 (Zoom) にて使用するものを入力してください。また、添付ファイルの形式で資料等をお送りすることがありますので、携帯メールアドレス以外のご入力をお願いいたします。(例iryou@jvnf.or.jp)

メールアドレス入力欄

以下をご確認いただき、解答欄に「はい」と入力してください。(同意いただけない場合は、受講ができません。)

※各都道府県・政令指定都市教育委員会につき1端末のみ接続可能となります。(1端末で複数名の視聴は可能)

回答欄

※研修後のアンケートに回答します。

研修終了後にご登録のメールアドレスへアンケートのURLをお送りしますので、アクセスしてご回答ください。本事業の評価と今後の参考のため、ご協力をお願いいたします。なお、お申し込みいただいたご本人がご回答ください。

回答欄

以下、研修を受講される方(複数名いらっしゃる場合は代表者)の情報をご入力ください。

●受講者名

受講者様の姓名を入力してください。姓名の間にスペースを入れてください。(例：研修 太郎)

●受講者名ふりがな

受講者様の姓名をひらがなで入力してください。姓名の間にスペースを入れてください。(例：けんしゅう たろう)

●ご所属先が都道府県か政令指定都市か選択してください。(あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください)

| | |
|---|--------|
| 1 | 都道府県 |
| 2 | 政令指定都市 |

回答欄

回答欄

●都道府県名または政令指定都市名

受講者様のご所属先都道府県名または政令指定都市名を入力してください。

●郵便番号

郵便番号7桁をハイフンを入れずに記入してください。(例：1500001)

●住所

市区町村名から入力してください。(例：渋谷区神宮前5-8-2) ご記載の住所に研修資料をお送りします。

●電話番号

ハイフンを入れずに入力してください。(例：0309999999)

●ご所属先

受講者様の所属部署を入力してください。(例：〇〇教育局 特別支援課)

●職位

受講者様の職位を入力してください。特に無いようでしたら「なし」と入力してください。（例：指導主事）

| |
|--|
| |
|--|

●受講者様の役割を選択してください。（あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください）

「その他」を選択の場合は役割を入力してください。

| | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 教育委員会の看護職員への研修開催担当（非医療職） |
| 2 | 教育委員会の看護職員への研修開催担当（医療職：看護職員等） |
| 3 | 主に学校に勤務する指導的立場の看護師 |
| 4 | その他 |

| | |
|--------|--|
| 回答欄 | |
| その他の記載 | |

●現職の経験年数（あてはまる数字を回答欄へ入力してください）

| | |
|---|-----------|
| 1 | 0～1年未満 |
| 2 | 1年以上～5年未満 |
| 3 | 5年以上 |

| | |
|-----|--|
| 回答欄 | |
|-----|--|

●学校で医療的ケア児に直接関わった経験年数（あてはまる数字を回答欄へ入力してください）

| | |
|---|-----------|
| 1 | 0～1年未満 |
| 2 | 1年以上～5年未満 |
| 3 | 5年以上 |

| | |
|-----|--|
| 回答欄 | |
|-----|--|

数字

●学校に勤務する看護職員を対象とした研修について、課題や困難であると感じたことを選んでください。

（あてはまる数字をいくつでも回答欄に記入してください）

| | |
|----|------------------------|
| 1 | 研修を開催する時間の確保 |
| 2 | 研修開催場所の確保 |
| 3 | 研修講師等の人材確保 |
| 4 | 医療的ケア技術演習の実施 |
| 5 | 予算の確保 |
| 6 | 看護職員による経験の差に合わせた研修の企画 |
| 7 | 看護職員の研修ニーズの把握 |
| 8 | 看護職員の研修開催担当者としての専門性の向上 |
| 9 | 新型コロナウイルス感染症に対応した研修の開催 |
| 10 | 小人数のため実施しづらい |
| 11 | その他 |

| | |
|--------|--|
| 回答欄 | |
| その他の記載 | |

ご不明な点等がございましたら、以下の事務局までお問合せください。

公益財団法人 日本訪問看護財団 事業部 文部科学省委託事業担当 03-5778-7004

Web研修後アンケート調査

本フォームは、文部科学省より委託を受けて公益財団法人 日本訪問看護財団が主催する「学校における医療的ケアに関する看護職員の企画研修」研究協議会の事後アンケートに使用されます。本事業の評価と今後の参考のため、ご協力をお願いいたします。なお、お申し込みいただいたご本人がご回答ください。

●受講者番号

数字の受講者番号を入力してください。

●都道府県名または政令指定都市名

受講者様のご所属先都道府県名または政令指定都市名を入力してください。

●受講者名

受講者様の姓名を入力してください。姓名の間にスペースを入れてください。(例：研修 太郎)

以下アンケートにお答えください。

1. (1) 本研修は、学校に勤務する看護職員を対象とした研修を企画するにあたり参考になる内容でしたか
(あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください。)

| | |
|---|-----------|
| 1 | そう思う |
| 2 | ややそう思う |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない |

| | |
|-----|----------------------|
| 回答欄 | <input type="text"/> |
|-----|----------------------|

1. (2) 上記選択の理由をご記入ください(自由記載)

2. (1) 本研修会の構成についてどう思いましたか

(あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください。)

| | |
|---|-----------|
| 1 | そう思う |
| 2 | ややそう思う |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない |

| | |
|-----|----------------------|
| 回答欄 | <input type="text"/> |
|-----|----------------------|

2. (2) 上記選択の理由をご記入ください(自由記載)

2. (3) 今後、本研修に加えた方がよいと思われる内容をご記入ください（自由記載）

| |
|--|
| |
|--|

3. 各講義の感想・ご意見をお聞かせください

(1) - 1 講義「教育委員会が企画する看護職員研修について：講師 津川 周一 氏」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思いますか

（あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください。）

| | |
|---|-----------|
| 1 | そう思う |
| 2 | ややそう思う |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない |

| | |
|-----|--|
| 回答欄 | |
|-----|--|

3. (1) -2 感想・理由をご記入ください（自由記載）

| |
|--|
| |
|--|

3. (2) - 1 講義「学校における看護職員とは：講師 奈良間 美保 氏」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思いますか

（あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください。）

| | |
|---|-----------|
| 1 | そう思う |
| 2 | ややそう思う |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない |

| | |
|-----|--|
| 回答欄 | |
|-----|--|

3. (2) -2 感想・理由をご記入ください（自由記載）

| |
|--|
| |
|--|

3. (3) - 1 講義「有意義な研修開催のための提案①学校における医療的ケアに関する教育的な意義/校内体制の整備について：講師 中葉 哲郎 氏」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思いますか

（あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください。）

| | |
|---|-----------|
| 1 | そう思う |
| 2 | ややそう思う |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない |

| | |
|-----|--|
| 回答欄 | |
|-----|--|

3. (3) -2 感想・理由をご記入ください（自由記載）

| |
|--|
| |
|--|

3. (4) - 1 講義「有意義な研修開催のための提案②指導的立場にある看護師の役割とその育成/看護職員の経験等に応じた研修ニーズの把握と対応：講師 植田 陽子 氏」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思いませんか

（あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください。）

| | |
|---|-----------|
| 1 | そう思う |
| 2 | ややそう思う |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない |

| | |
|-----|--|
| 回答欄 | |
|-----|--|

3. (4) -2 感想・理由をご記入ください（自由記載）

| |
|--|
| |
|--|

3. (5) - 1 講義「有意義な研修開催のための提案③オンラインによる医療的ケア技術演習のデモ講義：講師 石井 光子 氏」の内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思いませんか

（あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください。）

| | |
|---|-----------|
| 1 | そう思う |
| 2 | ややそう思う |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない |

| | |
|-----|--|
| 回答欄 | |
|-----|--|

3. (5) -2 感想・理由をご記入ください（自由記載）

| |
|--|
| |
|--|

3.(6)-1グループワークの内容を、今後の看護職員研修に活かしたいと思いませんか

（あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください。）

| | |
|---|-----------|
| 1 | そう思う |
| 2 | ややそう思う |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない |

| | |
|-----|--|
| 回答欄 | |
|-----|--|

3. (6)-2 感想・理由をご記入ください（自由記載）

| |
|--|
| |
|--|

4. (1) 今回のWeb配信という形態の研修は集合の研修と比べて、どう思いましたか
(あてはまる数字をひとつ回答欄へ入力してください。)

| | |
|---|-----------|
| 1 | とても良かった |
| 2 | 良かった |
| 3 | どちらとも言えない |
| 4 | あまり良くなかった |

| | |
|-----|--|
| 回答欄 | |
|-----|--|

4-2 感想・理由をご記入ください (自由記載)

| |
|--|
| |
|--|

5. 本研修の開催方法(時期、対象、目的等)、全体を通じた感想・ご意見をご記入ください (自由記載)

| |
|--|
| |
|--|

6. その他学校に勤務する看護職員研修について、国への要望がありましたらご記入ください (自由記載)

| |
|--|
| |
|--|

質問は以上です。ありがとうございました。

**令和2年度 文部科学省
学校における医療的ケアに関する研修機会の確保
(教育委員会による研修会の企画研修)
事業報告書**

令和3年(2021)年3月31日

発行・編集 公益財団法人 日本訪問看護財団

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2

日本看護協会ビル5階

TEL.03-5778-7001 FAX.03-5778-7009

<http://www.jvnf.or.jp>